大日本蠶絲會報

第六拾七號

明治三十一年一月

目次

◉論說
●年末に際し蠶絲業者の一顧を煩はす　高橋信貞
●注意注意注意　練木喜三
●生絲の改良に就て　富田鐵之助
●歐米に於ける本年の蠶絲業　橋本重兵衛

◉寄書
●調査を誤り蠶紙の雌雄を鑑別することに就て　森成次郎
●洪水と蠶繭の關係に就て　荒賀莊太郎
●吉浦先生發見蠶兒の小氣門に就き一言す　原久次郎

◉問答
●蠶種の餌青に就き質問並に答●殺蛹法に就き質問並に答●萎縮病に罹ること稀なる桑樹の種類に就き質問並に答●製茶室の階上に蠶を設くるの件質問並に答●蠶繭檢査に就き質問並に答●蠶種に就き質問並に答●小形微粒子蚕蛾に就き質問並に答

◉統計
●最近十一箇年間生絲入荷在荷及價格の比較●米國輸入生絲[illegible]●十年十一月中生絲及絹物輸出入調

◉外報
●伊國蠶業成績●經育生絲商況經報●伊國千八百九十七年の蠶取獲

◉雜報
●御手製の打敷●沖繩縣の養蠶●臺灣の養蠶試驗成績經報●四化生蠶飼育失敗談●清國蠶絲業視察報告●生絲檢査所生絲檢査調●宮崎縣の蠶業●京都府蠶絲業組合立蠶業講習所●山口縣蠶絲業大會●山形熊本二縣の夏秋蠶●桑苗の低價●蠶繭肥料の製造●觀蓮社教授員の熱心●高崎田村清水三氏の名譽●盛岡五品聯合品評會●加佐郡農產品評會●大日本農會品評會開設●鹿兒島縣蠶業一斑●鹿兒島縣產繭の成績及希望●本年の寒氣と蚕及製絲●擴絲會社の開業●天蠶絲の試製●生絲仲次商の改稱●內外生絲商の交情●蠶業教育費國庫補助廢止●關西生絲の品位に就て●叙任及辭令

D.1

大日本蠶絲會報第六拾七號

◉論說

●年甫に際し蠶絲業者の一顧を煩はす

大日本蠶絲會技藝委員　高橋信貞

明治の昭代も已に而立の年を閲し茲に三十一年の新正を迎へて千代をことほぐと同時に吾人の腦裏に湧出し来るところのものは則歳計なり人世常に意の如くならず歳旦に劃策せしこと歳末に至りて齟齬するこゝきは人世の定數免るべからざるもの蹴回顧すれば吾人が完成を期したる戰後經營の蹟如何軍備の膨脹となり起業熱の沸騰となり會社の濫設となり兌換券の增發となり物價の騰貴となり延ひて政界の紛亂となり政黨の攻擊となり内閣の交迭となり贏すところは唯世上に譁囂せる歳計豫算に二千四百餘萬圓の不足を生じ財政紊亂せりとの傳説と外交問題の紛擾のみ嗚呼人世常に意の如くならず其言ふや易く之を行ふや難しとの古諺眞なる乎只恐る内外の大勢顚倒に急を告ぐるものありて日も亦足らざるの秋既往の蹟已に是の如し感慨に堪へざるなり

今や眼を凝らして我蠶絲業界を達觀すれば一昨二十九年の商戰に敗を取りし製絲家も昨三十年には大に敗後の經營に勉めたると米國市場の商況恢復に傾きたるより創痍を癒したるもの多きを見る況んや世界蠶絲の供給は二割以上の不足を告ぐるものありたるより絲價は秩序的に昇騰の勢を保ち今猶活氣の市場に躍るの狀勢ありて存すれば斯年の商戰は稍〻前年の戰敗を購ひ得るに庶幾かるべけん

大日本蠶絲會職員

●幹事長　農學士　岡練三郎

●幹事　農學士　高橋喜信

農學士　紫藤章貞

農學士　本多岩次郎

農學士　大木練三郎

農學士　高田芳之丞

農學士　田岡賀四郎

農學士　田原權兵衛

農學士　中休重郎

農學士　橋本巳之助

農學士　辻畠畅太郎

農學士　永島畅七郎

農學士　町田禮貞

農學士　松島菊次郎

農學士　足立元作

農學士　青山伍郎

農學士　平野師應

農學士　石渡繁胤

農學士　星野太郎

農學士　本長次郎

農學士　小畑岩義

農學士　大島正三郎

●評議員　農學士　橋本信章

農學士　高橋信貞

農學士　紫藤章貞

理學博士　佐々木忠二郎

農學士　佐藤國太郎

●技藝委員　理學博士　佐々木忠二郎

農學士　紫藤章貞

農學士　今西直太郎

農學士　伊藤國太郎

農學士　下田伊左衛門

農學士　市川延次郎

農學士　八藤小左衛門

農學士　橋本重兵衛

農學士　田長太郎

農學士　星野岩次郎

農學士　本多太郎

農學士　堀内雄也

農學士　大林正也

農學士　渡部太郎

農學士　菅野平

農學士　横井右衛門

農學士　高橋時敬

農學士　高木信貞

農學士　田原三郎

農學士　田中休之丞

農學士　田木喜三郎

農學士　松永伍郎

農學士　棟町次郎

農學士　田菊作

農學士　田本善右衛門

農學士　藤津平

農學士　船山傳次郎

農學士　青木忠二郎

●地方委員　農學士　澤野九淳

農學士　木村直藏

農學士　芝山清

農學士　下田伊左衛門

農學士　鹽澤佐左衛門

農學士　石渡繁胤

農學士　芳賀權七

農學士　岡本四郎

農學士　河原金次郎

農學士　辻畠畅太郎

農學士　月田一郎

農學士　圓田畅太郎

農學士　足立元三郎

農學士　紫藤章太郎

農學士　毛呂正容

農學士　鈴木武太郎

農學士　下田伊左衛門

農學士　中村半左衛門

農學士　村本重兵衛

農學士　角田喜九藏

農學士　川村右彦

農學士　永島禮七

農學士　小野元兵衛

農學士　降野元三郎

農學士　淺野太郎

農學士　金子孫左衛門

農學士　中村直清

農學士　中橋信貞

農學士　木村千作

農學士　桜木藏

農學士　千葉群

農學士　梨馬

農學士　崎玉

農學士　神奈川

農學士　東京府

農學士　福島縣

農學士　山形縣

斯の如き事實なるが故に昨冬より本年に掛け地方處々工場の設計をなすもの增加し或は新設に或は增築に一見頗る歡ぶべきが如くなれども之を實際に徵すれば其設備の不完全にして規矩の正しからざる所謂粗物の增加なるを以て之を國家の經濟上より見るときは轉た杞憂に堪へざるものあり今左に農商務省の調査に係る本邦產絲額に對する繰釜の數を揭げて實況を示すべし

本邦生絲の製產額は（自二十五年至二十九年五ヶ年の平均）百三十三萬六千四百九十一貫目なり之を個となして十四萬八千四百九十九個（但一個九貫目）

繰釜現在數十六萬八千五百六十七個（但十人繰以上）

夫れ是の如し故に一日一釜平均五十匁の生絲を繰り得るものとすれば以上十四萬八千四百餘個の生絲は日數百五十九日にして製造し得べき割合なり然るときは一年三百六十五日の內半ヶ年間は此十六萬八千五百六十七個の繰釜を不用に屬せしめ措て顧みざるの姿なりとす

事實已に是の如くなれば本邦の收繭額を二百萬石と見做し而して此內より蠶種製造用繭等を除き他を製絲するものとせば以上の算法にて現在釜數の半額即ち八萬四千二百八十餘個にて足れるものなるべし豈不經濟の至りならずや

試に一釜の製造入費を木製粗造のものと見積り一釜十二圓とするも百〇一萬一千四百〇二圓なり是此金額は固定資本となりて我蠶絲界に常に地方に睡眠し居るの姿なり之に加ふるに工場の建物倉庫等を加ふれば少額に見積るも年々三四百萬圓の金額は空しく地方製絲家の手元に鑒居せられ所謂餠陳に於ける蒲堰の死金若くは孫女の嫁入金と一般神棚又は床下に埋沒し去られつるに等しからずや故に余は此年甫に際し玆に斯の不經濟なる一例を示し將來是等不經濟の增長なからしめむことを希望し且つ一歩を進めて製絲器械の完備と工場整理の刻下に急務たることを當業者諸君に訴へ置かむ抑も本邦製絲家の組織たる固と農家の片手間仕事より成り立ちたるが爲め因襲の久しき今尙其規模窄小にして器械の如き之を學理に照して製作したるもの殆ど稀なり故に圓形全く圓ならず方形全く方ならず率ね手加減、目分量、心覺の三者を準繩となしたるを以て所謂勞多くして功少なく無駄に時間と資金を費し而して製出の生絲は其目的に適ふを以て其繊維の圓ならむことを欲して反て平扁ならしむるか如きもの數ふるに勝ふべからず故に是等不完全の器械を改良して精巧完備のものとなし而して工場管理の任に當るべき技術者を養成して其完備せる器械の效用を全からしめなば現在の釜數に一個をも加ふることなくして之に二倍若しくは三倍するの生絲を製出し得るや火を睹るより炳かなり然るときは地方に睡眠せる夫の三四百萬圓の固着資本も流動して運轉資本を產み國利民福の增進を裨補することを得るに至るべし

況んや改正條約實施の期切迫せるの今日に於けるをや外人彼等が低利の資本と精銳の機械とを齎し來りて我に競爭を試むるの日なきを保せざるべし一釜一日僅かに二十五匁乃至五十匁の生絲を製出しつつ彼の競爭に當らむとするが如きは所謂衆と刄火繩銃と村田銃勝敗固より論なきなり想ふてこゝに至る寒心せざらむと欲するも亦得べからざるなり嗚呼逝く者は水の如き乎切に望む當業者諸氏の健在にして經營に漏められむことを此年甫に際し聊か所感を叙して以て蠶絲業者の一顧を煩すこと如此

◉注意注意注意

大日本蠶絲會技藝委員　練木喜三

蠶種檢査法實施の期は迫れり當業者諸士の之に對する準備如何注意既に周到健全無毒の蠶種を製造するを得て內は不合格の不幸を免かれ外は輩主の屬望に負くなきを得べきや否や

憶ふに該法の實施は譬へば猶ほ舟の水に於けるが如し當局者は舟子なり當業者は水なり舟を行るの巧拙は舟子に在るも航路の難易は水の動靜に關せずんばあらず假令行舟拙ならざるも一たび風怒り水激せば時に或は轉覆の不幸に陷るの虞なきを保せず舟子の精巧と水波の靜穩と相俟て始めて容易に彼岸

に達するを得べきなり當局者縱令之を勵行するも當業者若し單に形式的合格を得んことを惟れ力め其主眼たる製種上の注意を怠り而して力を本法精神の存する所に盡さゞれば則ち此法の實益は得て望むべからず當局者の勵行と當業者の注意と相俟ちて始めて善美の效果を收むるを得べきなり

今の時に方り當業者の注意を要すべきもの蓋し一にして足らずと雖も今其最も急にして且切なる要件を左に揭げて以て當業者諸子の猛省を乞はんとす要件とは何ぞや曰く消毒法の勵行是れなり

抑も微粒子病毒なるものは單に親蛾の遺傳に由りて繁殖蔓延するのみにあらず傳染に由りても亦其害毒を逞うするものなることは夙に世人の知る所にして即ち病毒ある蠶兒と室を同うするか若くは蠶室蠶具に病毒の附着殘留せるが如き場合に於ては如何に無病健全なる蠶兒と雖も到底其傳染を免るゝことを能はざるなり

左れば獨り蠶種檢査法の實施に依りて原種の無毒を證し若くは飼育を鄭重にし原蟻を吟味し以て其製造する所の蠶種を精選するも猶未だ必ずしも其全滅を期すべからず既に一度蔓延の害を被ふりたる蠶室に在りては特に然りとす故に凡そ製種家たるもの苟も該病毒を殄滅して其跡を絕たしめんと欲せば宜しく一面には將に實施せられんとする所の檢査法に遵由して原種の無毒健全を期すると同時に一面には蠶室蠶具に附着殘留せる病毒を撲滅するの法を講ぜざるべからず否らざれば如何に蠶種を精選し如何に檢査を勵行するも已に浸染せる遺毒は或は塵埃に混じて蠶室内に殘留し或は蠶具に附着し以て年々傳播繁殖の害を逞うし遂に撲滅の期あることなけん

約言すれば微粒子病毒なるものは一は遺傳以て來り一は傳染以て發す故に吾人の之を撲滅するの法前者に對しては顯微鏡檢査を以てし後者に對しては消毒法の勵行を以てせざるべからず人若し單に檢査法の兇むべきを知りて消毒法を忽諸に付するが如きあらば遂に其完全なる效果を收むること能はざらん豈戒慎せざるべけんや是れ余が蠶種檢査法の將に實施せられんとするに際し特に消毒法の勵行を當業者諸子に勸告せんと欲する所以の一なり

蠶兒を傷害する病毒なるものは獨り微粒子毒の一種に止まらず白殭蠶病毒軟化病毒等も亦傳染の性を有し而して劇烈なるものに在りては其慘害寧ろ前者よりも甚だしきものあることは業に既に世人の熟知する所にして消毒法は即ち是等の諸病害物をも併せて撲滅することを得べき一舉兩得の善法なり是れ余が該法の勵行を當業者諸子に勸告せんと欲する所以の二なり

消毒の方法は數種ありと雖も或は用ふる所の藥品劇毒を有するが爲め危害を人體に及ぼすの虞あるものあり或は高價なる器械藥品を要するものありて普く之れが使用を勸め難き事情尠なからず故に今其最も簡便にして行ひ易き方法の一二を左に記して參考に供せんと欲す

一亞硫酸瓦斯消毒法　此法は比較上危險の虞少なく且つ高價なる物品と困難なる手數とを要せずして其效力も亦敢て多く他に讓らざることは余の屢〻實驗せる所にして目下當業者の採用すべき便法の一なるを信ず左に其方法を詳述すべし

消毒を行はんと欲せば先づ左の準備を整ふるを要す即ち蠶籠簇等を始め凡そ蠶具にして苟も病毒附着の恐れあるものは總て之を蠶室内に排列し其燃燒し易き物品は嚴しく火爐の邊を遠ざけて失火の恐れなからしめ諸器具は互に密積することなく可成能く瓦斯の行き渡る樣に整理し蠶室の四方幷に天井を密閉し障子戸板等の間隙其他瓦斯漏洩の恐れある場所は總て丁寧に目張りを施し而る後熏蒸を初め直ちに室外に出でゝ其入口をも亦密閉すべし但障子の一方には豫め硝子板を付し時々室内の模樣を視察するの便に供すべし

消毒用の藥品は即ち硫黃なり(工業用粗製品にて可なり)其分量は余が實驗に據れば建坪一坪に付五十匁の割合にて足れりとす若し其蠶室にして前記の整理をなすも尙ほ瓦斯漏洩の恐れある場合には其度合に應じて之が倍量まで增加するを要す然らざれば效力も亦從て不十分なるべ

きは勿論なり而して熏蒸の法は先づ其硫黄を古鍋様の物に容れて武火に上せ其悪く熔解するを俟ち蠶室内に移して爐中若くは大火鉢又は之に類して失火の虞なき物の上に安置し武火一塊を點じて燃燒するなり斯くて時々室内異狀の有無を視察し二十四時間を經て之を開放し十分に新鮮なる空氣を流通して臭氣の全く去るを俟ち蠶室は他くまで丁寧に掃除拭淨し蠶具は清水を以て洗滌し十分乾燥せしめて後使用に供すべし

然れども此法亦多少の缺點なき能はず即ち亞硫酸瓦斯は能く物を褪色せしめ又は金屬を腐蝕せしむるの性質あるものなれば居宅兼用の蠶室等にして此法を行ひ難きか若くは瓦斯の漏洩甚だしく其效力十分ならざる場合には蠶具類のみを他室に移して此法を行ふか然らざれば左記の方法を採用すべし

一熱殺法　此法は名の如く單に高度の熱を加へて病毒を殄滅するに在り是れ余が嘗て實施驗定せる所の法にして亦能く諸種の病毒を撲滅するに足れり此法を行はんと欲せば先づ消毒すべき蠶具類を清水にて洗滌し濡れたるまゝ殺蛹室（或は之れに類似の設けをなし可成温氣の逸出せざる樣にすれば如何なる場所にても宜し）内に配置し華氏百七十度以上の温度にて熱すること二時間にして取出すなり

若し當業者にして果して能く以上の二法を適用して之を誤らず而して必ず無毒なる蠶種のみを撰用し且つ飼育法宜しきを得ば微粒子病毒の撲滅は期して俟つべきのみならず彼の白殭蠶軟化病等の諸病菌も亦併せて殄滅するを得るを以て毫も蠶兒の健康を害することなく蠶種製造家は以て無毒健全の蠶種を製造することを得普通養蠶家は以て成繭の豐饒を得るに至らんか即ち敢て當業者諸子に勸告す

●生絲の改良に就て（第三回小集會演說）

貴族院議員　富田鐵之助

只今岡幹事長より何か一言諸君に申上げるやうにと云ふ相談がございました、實は今日私は午後から他に參らなければならぬ差支がございますから一應御斷りを致しましたが、暫時なりとも出席するやうにと云ふ相談でございましたから只今此席に出ましたのでございます、私は生絲のことに就きまして御受銷致されたに付きましては一言の祝辭を述べなければならぬのでございます、只諸君に向つて今後益々國家の爲に御精勵あらんことを希望するのでございます、顧みますると此生絲と云ふものは申すまでもなく我國の一大産物であつて三十年來我國の命脈を保つて來たと云ふのも此生絲が與つて力有るのでありまして、且つ此生絲の改良と云ふものは世間で喋々致しますが私の見ます所では非常なる進歩を致して居ると考へます、比較的他の貿易品に比べましても決して劣つて居らず一緒に進で居ると考へるのでありまして、然らば今後改良の必要が無いか、是で止めて宜いかと云ふことになりますと私などは益々此上にも改良せぬならぬと考へて居ります、總て改良等をするには自ら競爭の力が無いと出來ないのである、既に日本の此一大産物を改良すべき最も重要なる敵が顯れて居ります、それは私が喋々述べるまでもございませぬ、諸君も既に御承知でございませうが、それは支那の改良でございます、近來までは支那は非常なる多額の生絲を産出致して居りましたが、此改良に着手したと云ふのは誠に近來でありまして、昨今海外に輸出になつて居る價額と云ふものは大抵日本から海外へ輸出になつて居る價額と同等であらうと思ひます、即ち我國から五六千萬圓の生絲が輸出になつて居る、又支那からも五六千萬圓の生絲が輸出になつて居る、さりながら原量を比較して見ますると支那より輸出して居る原量は日本より輸出する所の物品よりも倍の物が輸出になつて居る、然らば支那の生絲と云ふものは日本の生絲の半額ほか致して居らぬのでございます、然るに之が改良を加へて參つたならば即ち價格も日本の輸出より倍になるか、或は其餘に出るかも知れぬのであります、我輩は最も注意致し、最も熱心に我國の生絲を改良せぬならぬと考へます、初め私などは支那の上海に於て

生絲の改良が始つたと云ふことを承つたが決して之は出來ぬことであらうと考へて居つた、なぜならば上海は御承知の通り第一に禁物に不足して居る所である、それから其次に困難なるものは精良の水が無く悪く濁水であります、此二點に於て決して改良することは出來ぬと思つて居つた、所が豊計らむや昨今になりまして二三千の器械が据付けてあつて職工も一萬人前後もそこに居る、さうして透明なる立派な絲が產出する模樣でございます、之は私が喋々述べませぬでも諸君は御承知であらうと考へます、斯の如く漸々改良して參つたならば我國の生產に影響を及ぼすことは非常なること、考へます、然らば我國は益々是より進で此支那の改良に一歩先じなければならぬのでございます、又先ずること が出來ると思ふのは我國は薪炭に富で居り、又何れに行つた所が水の不足と云ふことはない、山水明媚なる我國に於て支那の改良に遲れることは決してないと考へます、今日諸君が此名譽ある賞狀を御受領になつた以上は益々是から進で其責任を果されることを切に希望するのでございます、一躰何故に我國の生絲商賣と云ふものが困難なる地位に居ると云ふことは之は種々原因もございませうが、此頃支那より多少の屑繭を取寄せて私が試驗して居りますが、それは我國の屑繭よりは二三割安い、海上の運賃、保險料其他を拂つて我國に參つても尙ほ二三割價が安いと云ふのでありますから之は餘程我國に於て注意せぬならぬことゝ考へます、斯の如くであるから生絲も亦同樣であらうと思ひます、生絲と云ふものは我國では餘り利益の無いものと云ふ樂評がございますが、決して私は左樣なものではないと思ひます都て工業なるものは最も節儉に最も緩密に從事してやつたならば是までよりは價も廉に又精良なる產出が出來るであらうと考へます、私は素人でございますから委い統計を諸君に示して御話するとは出來ませぬ、只外國から輸入したものに對して比較致して見ますると我國の物は高く、外國から輸入する物は安いと云ふことは誠に明瞭になつて居ります、工業の發達なるものは何れに在ても自國內の競爭に始りて而して後一國團結し外國との競爭に當るべきは斯業進歩發達の順序である、外國との競爭に打勝つて初て工業國と誇るべき名譽を擔ふのである、我製絲業は國內競爭の時はもはや經過して今や海外と雌雄を爭はなければならぬ場合に迫つて居る、故に何とぞ今後益々此一大物產をして上下一致して斯業の發達致すことを切に希望致すのでございます、聊か祝言に換へて此一言を述べて置きます(拍手大喝采)

●歐米に於ける本年の蠶絲業 第三回小集會演說

大日本蠶絲會技藝委員　橋本重兵衛

私のは今張出しましたのでございまして大きな問題のやうでございますが、歐米に於ける本年の蠶絲業と云ふ御話を致したうございます、本年の蠶絲業に就きましては皆樣も御承知のあらせられます通り世界中養蠶の不作なることでございまして、私は向ふへ參つて調べて參つたのではございませぬが、歐米の新聞又は節事の報告から調べ出したことでございます、本年の新繭採收の時日本人は本年の生絲に對する考はどうであつたかと申しますと悪く安い氣組でございました、そこで各國共に不作であると云ふことは皆樣にもあの當時に節事の報告がございましたから御分りであつたらうと思ふのであります、そこで本年の生絲及び織物の有樣は海外に於ける所はどう云ふ風の有樣であらうかと、是れだけは宜う調べて商賣と云ふものを起さぬければならぬものであらうと思ひます

先づ第一に支那第二に伊太利第三に佛蘭西及び日本の所まで御話を申上げたうございます、支那のことは近頃まで一切分りませぬでございました、然る處誠に本年は幸なことに政府でも見る所がございまして松永技師及び高津仲次郎君を派遣させました又星野長太郎君、町田菊次郎君が自費を以てあつちへ御出になりましたものでありますから誠に本年は支那のことが能く分つたと思ふのでございます、實に視察がなかつたならばさつぱり昨年の通り分らなかつたので實に幸なことでございました、

そこで就中此の高津さんなどの御調べと云ふものは十分皆樣が御覽になりましたらうと思ひますが非常に價値あるものと私は考へて居ります

そこで皆樣も御覽に相成りましたらうが支那の養蠶は御承知の通り昨年よりは三割も不作と云ふことを聞いて居りますが、尙ほ支那の有樣と云ふものは第一番に生絲を器械製に改良したることで、我國にても種を改良し種々のことを改良しましたに致しましても一番に大切なのは販路でございます恐らく是より貴いものはないので若し販路が悪かつたならば本年の如く相場宜き時には下等の絲が九百圓に賣れて相場の悪き時は上等の絲が八百四十圓と云ふやうな有樣でありまして市場の有樣が時として變つて來ますから是非共販路と云ふものには十分なる力を御盡しにならぬければ結構な絲を取つても安く賣るやうなことが出來ます、所が昨年の所からして支那は生絲販賣に付非常に此大幹の方針と云ふものを誤つたので、昨年中非常に支那は賣り客みをして殊に賣らずに居つて此春に至つて非常に安直の時にすつかり賣つて仕舞つた故に此日本の賣れなかつた本年七八九月上旬までに先約束をしてドン〳〵賣つて仕舞つた故に九月以後の高い所の直段は賣らずに仕舞つた、然るに其方針は日本では十分なる方針を取つたと思ひますから大に其方面には宜いのでございます、そこで支那は織物なども十分先約束して夫れが爲めに上海の商人は恐らくは百萬兩の損害であつたであらうと云ふことでございましたが餘程多分に先約束をしたものと思ひます、そこで支那器械生絲の有樣がどうであつたかと云ふと二十七年度の六月より二十八年度の五月迄の間を一期として出します所の改正生絲即ち機械絲でございます、夫れが四千七百八十五俵出て居ります八年度から九年度に掛けて六千三百二十八俵、夫れから二十九年度から三十年度に掛けて八千二百九十二俵出て居ります、然るに皆樣の御調べに據つて見ますると當年の所は不作の爲め繭が高くして恐らくは五千俵位しか出すことが出來なからうと云ふ御話でございます、さうして見ますると餘程の不作である、又此價も高くあつたと云ふことは能く

分つて居ります、そこで支那は先づ其邊に致して置いて

第二の伊太利の重なる繭の收獲の御話を致しますが伊太利繭の收獲は一割餘の不作であつて、さうして全國一般として見たならば一割三分の不作と云ふことを言つて居ります、重なる地方のピーモンド地方の賣買高が幾らであつたかと云ふと千八百十六年即ち去年と今年の對照でございますが繭の賣買になりました昨年の數量が千三百七十四萬九千七百九十基にして、本年の所が千二百二萬六千九百五十基にして昨年より減じて居ります、金高の報告は九十六年が三千七百四十二萬二千五百七十二法、本年は二千九百八十六萬五百七十八法と斯う云ふ譯で、そこで昨年の一基の繭の價は二法七十二仙、本年は二法四十八仙と云ふ譯で品の獲れなかつた方が安いと云ふ次第である、そこで伊太利人は非常な困難を見る場合に立至つて居ります、そこで伊太利の御話は夫れだけに致して

是れから佛蘭西の御話を致します、佛蘭西の方は全國を通じて一割八分の不作だと申して參つて居ります、そこで年〻各國の養蠶を見積りますると、佛蘭西の新聞の申して參りましたのには本年の生絲の產出高は幾らかと云ふと千二百八十六萬八千基、昨年は幾らかと申しますと千四百十三萬七千基と云ふ割合で本年の所は百二十六萬九千基の不足になつて居ります、そこで之はすつかり分りませぬが大抵本年の所は此位と云ふ見積りで出しましたが敢て格別等差はございませぬことでございます、そこで佛蘭西里昂の絹織物の比較でございます、昨年のクリスマス迄と本年のクリスマスの比較でございます、昨年は絹織物の注文高が一億三千三百四十萬九千法だけ織出しました、本年のクリスマス迄の注文高は幾らかと云ひますと一億六千二百五十五萬法の注文が來て居ります、さうして昨年よりは二千九百十四萬千法の增加になつて居ります

そこで是から亞米利加の方に移ります、亞米利加はどう云ふ所からして是までの大不景氣を回復し來つたかと云ふと、小麥が非常の上作でありましたのに海外は一般に大不作ださうでありまして、そこで

小麥作の御話をするのはちよつと是は異なものでございますが御參考に御話を致します、千八百九十五年には四億六千七百十萬二千九百四十七物穫れました、千八百九十六年には四億二千七百六十八萬四千三百四十六物穫れて居ります、當年は五億五千萬物穫れました、で一物は我一斗九升五合ばかりに當つて居ります、一斗九升五合即ち一物に對する麥の價格は幾らであつたかと云ふと一昨年は七十三仙四分の三の直段である、本年は幾らかと云ふと一弗二十二仙餘に付いて居ります、そこで收穫は幾らであつたかと云ふと三割增して居ります、直段を見ると五割以上の高直になつて居ります、所で非常に歐羅巴が不作で、それが爲めに能く賣れて居りますから亞米利加は直ちに回復をして仕舞つたのです、夫れでございますから此小麥の穫れたに就いて亞米利加は非常に宜い景氣になつたと云ふことで、そこで是れよりは紐育生絲の有樣を御話を申上ますが、七月頃日本の機械太の一番絲の價でございますが一封度百二十匁でございます、それが七月上旬頃は幾らであつたかと云ふと三弗三十二仙五厘、下旬は三弗三十七仙五厘、八月上旬が三弗三十七仙五厘、下旬が三弗五十仙、九月上旬が三弗六十五仙、下旬が三弗七十仙、十月上旬が三弗七十五仙、下旬は三弗八十仙と云ふことになつて居ります、其三弗八十仙と云ふ時には伊太利佛蘭西兩國の一番絲より十仙高かつた即ち兩國の絲は三弗七十仙になつて居つて日本の絲はいつもよりも十仙高い所にあつた、それが十一月上旬には三弗七十五仙となり、下旬に入ると三弗四十五仙と落ちました、三弗四十五仙に落つることしたのは何所かと云ふと抑も横濱の賣込屋の先生達が落したと云ふも私は惡るくはないと思ふのです、そこで是れには追々手傳つた人があります、此手傳つた人も段々是れから撲き付けて參ります、それで今日の所は伊太利佛蘭西絲は幾らであるかと云ふと三弗五十五仙、それは先月の下旬でございます、先月の下旬までは三弗五十五仙で日本絲は三弗四十五仙でありました、さうすると十仙高かつた物が先月の下旬になりますと十五仙方安くなりました、此安くなつたと云ふものはどこから斯う云ふことを割出して來たかと云ふと横濱市場が非常に氣落をした爲めで、して見ると此横濱の市場の有樣はと云ふと七月上旬每上旬の比較の賣込直段が八百五十圓取引所の直段は先物即ち三ヶ月渡しだつた一口でございますのが八百八十九圓是は一と價ぎりで跡はない、八月になると賣込直段が八百三十五圓取引所の先物直段が八百七圓、九月の賣込直段は八百六十五圓取引所直段が八百三十二圓、十月が賣込直段が九百十五圓取引所直段が八百七十九圓、十一月が九百十五圓取引所直段が八百七十五圓、是は即ち上旬直で下旬も其通りになつて居ります、當切よりは何れも先物安直になつて居ます、所が十月上旬に至りますと此大手筋、大きい人が抑ゝ賣始めたので大變惡いことになつて居りはせぬかと思ふのですが、是も時節で幾ら賣つたにした所が相場と云ふものは下るものでなく、幾ら買つた所が上るものでございませぬ、さりながら時節に投じたものでありますから下つたと思ふのであります、其賣人は抑ゝ日本に於て第一の商人三井物產會社が賣人でございます、三井物產會社はどうあるかと云ふと夫れは御客があるので、其御客はどう云ふ人かと云ふと横濱の投機商の第一の人でございます、夫れに商館番頭がくつゝいて二三人で組合つて賣つたと云ふことでございます、それも八九十先づ此三ヶ月は賣り賣り賣りで、上るのにどん〳〵賣つて行きましたから損でございましたが、十一月からは漸々賣人が宜い鹽梅に行きまして十一月は何んでも五萬圓位の金を儲けたと云ふことであります、さりながら其賣込直段の所から引いて見ますして非常に先物が安いのでどうも外國人が手を付けることが出來ぬ、そこで十一月下旬に取引所が大下落をなさしめた時は機械の太絲一番が八百十一圓まだ下りました、夫れで賣崩し人は誰であるかと云ひますと横濱の投機商の親方が賣崩人でございましてさうして三井で世話をして居ると云ふので誠に困る、是が三井と云ふ名前ばかりでも恐れる所へ第二に海外の通信を日々取つて居つて此相場は來るものだと云ふ豫言をして賣り出すと云ふものでありますから如何にも叶はない、べたべた落に落て仕舞つたので例へば賣崩人が五萬圓儲けたとして見た所で生絲が昨今まあ二萬俵あるもの

と見ますると百圓落るとした所の物は取引所相場がなければ五拾圓しか落なかつたと思ひますと丁度二萬俵に對して五拾萬圓だけは此市場を寒からしめたと思ふのであります、併しながら日本の本年の商業は十分都合能く賣つて居りますから此場合には格別引つ掛らなかつたやうです私は本年の販賣方は可なりと思ふてをります、支那は昨年暮に賣らなくつて春の安い所で賣つた、此新絲より高くなる前安い所で安直に賣つて仕舞つたのは昨年の暮の方針が悪かつたから本年まで來たので、日本のはどうかと云ふと春の所を工合能く賣拔いて仕舞つて夫れから新絲に掛つて本年は格別高くないと云ふ有樣と思つて始めたからどんどん無暗に賣に掛つて十月まで賣つて仕舞つて十一月になつてまでついて格別荷物を賣らないで仕舞つて十一月下旬となると地方の荷主は口を揃へて賣らないと云ふ有樣である、先月の末には一つも賣らない、さうなると此本月三日には一度は二千五百俵賣れて昨日も二千五百俵賣れ二日の間に五千俵賣れた、さうして其價は幾ら上つたかと云ふと四拾圓より五拾圓二日間に直が上つて仕舞つた、さうして見ると投機商賣をなしたる所の利益はどうありませうか、本年七八九十と此間に取られて十一月に一遍に取つた處が此二日ばかりに取られて仕舞つた、どうも誠に感心しませぬ話でございますが何んでも昨日あたりも一萬枚賣つたと云ふことを聞きました、是はどの方面からどう云ふ風に賣つたか知りませぬが、詰り三井なぞではもう少し國家と云ふことを重んじて御貰ひ申さなければならぬかと思ふのであります、單に博奕一點で金を儲けやうなどゝ云ふ精神で國家の大切な重要物産に向つて博奕同樣にすると云ふのは餘り情ないと云はなければならぬ、さうして此下げ方の有樣はどう云ふ風にやつて來たかと云ふと其下げ方の甚しいことは實に見るべからざる拙ないざまの下げ方である、夫れはどうかと云ふと僅一ヶ月の間に百圓落した、甲にて九百圓に賣つた物の結了せざる内に乙の問屋が同じ品を八百八拾圓で賣り丙の問屋では八百六十圓で賣る、夫れで外商は斯う順に安く賣られては耐らないから何とかしなければならぬ、思ひ切つて安く價を付けて見やうと言つて、元九百圓で約束した品をベクにして更に夫れを八百四十圓と價を付けて見るとそれでも持て行くか行かぬか勝負だから價をくつ付けて見ろと云ふとで詰りごちやごちやして八百五十圓で賣つた爲に落ちて落ちて一遍に落ちました、どうも小さい問屋がある爲に非常に賣崩したと云ふことになる、已むを得ずやるのでございますが是はどうも小賣込屋は合併しなくては迚もいかぬと思ふのであります、そこで今度の高くなつて來た所の場合はどうであるかと云ふと先頃は銀塊が二十三片八分の五に下落したものが現今二十七片に上りましたからそこで支那の方に向ひて居る注文が日本にぐつと廻つて來たのではあるまいか、さうかとも思つて居ります、且又金貨國になつた以上は是までのやうに賣物に向つて周章ずとも宜い、是までは周章なければならぬのは外國爲替が四十六弗して居ります時は大變宜いと云つて居る、所が五十五弗になるとそれは實に叶はない、と云ふことは例へば横濱で八百五十圓の生絲に向けて銀塊の下落の爲に米國參着爲替が四十六弗とすれば米金にして三百九十一弗に當る、そこで五十五弗となれば四百六十七弗五分となる、それで銀貨が丸で護謨玉みたやうであつたから周章なければならぬが今日の所では昔の一圓は五十錢と極つたのであるから金貨國となつた以上は銀貨國の時の如く周章ることはない、此方針で周章ると周章切つて仕舞ふ、此所では銀貨國の時は高下はあるが是から先きは無くなつて仕舞ふ、まだ金貨國になつたばかりであるから銀貨制度の時の事情で變らないものと考へられるから困る、どうぞ此所は餘程氣を付けて貰はなければならぬ

そこで生絲の改良に就きましては菅樣が慥く御熱心であらせられますし十分將來改良もしなければならぬでありますが先づ以て一方に此生絲の檢査所が起つて居りますが未だ日本の人が檢査所を重んじて臭れない、あれ程結構なものに向つて檢査所を重んじて臭れないのはどうも困ります、自分が信じないで之を他人に信じさせることは出來ない、それであるから横濱の賣込商が信じて是は結構なものであると云ふことにして外國人に勸むれば宜いが、ちよつと横濱の有樣を御覽なさい、商賣の閑な時

には檢査所が賑であるが忙しい時には持つて來ない、然るに今回は幸に九十番は檢査所の封印の儘送つてやりまして其儘で賣れて居る、九十番は檢査所で殘らず檢査してもらつて送つた所が其成績が宜かつたから今回買入た荷物は解なくも宜しい置いて呉れと云ふのでまだ殘らずの檢査をすると云うことはどうだか知れませぬが買入た品は檢査所で檢査した儘で送るものだらうと考へて居ります、それでなければ解せるのであります、解かせる必要はどう云ふ譯かと云ふと、生絲は日に乾せば目方が減ると云ふことは能く分つて居ります、外國人は直に乾きのよき風通しの宜い所に持つて行つて乾燥させてやりますのが常であります、夫れを乾燥させないで解ごさずに置くと云ふのであるから必ず將來の所は檢査所に依頼して荷造りをするのだらうと思ふ、先づさうなると非常に此生絲のことに就きましても善くなつて參ります、先づどうぞ直輸會社でも努めて檢査所の證明書の儘で送ると云ふことにして御賞ひ申したいと思ふのでございます、そこで餘り長くなりますするし又皆樣の御話もございますから此邊に止めますことゝして此蠶絲改良に就ての科目だけを御話申上て置かうと思ひます

第一には生絲賣込商を合併なさしめて競爭の弊を去つて仕舞はなければならぬと思はれます即ち生絲賣込商を合同なさしめ競爭の弊害を防ぐこと、第二に生絲檢査所に於て總荷物の檢査の上荷造りをして其儘で送ること、是は是非やつて貰はなければなりませぬ、第三は生絲を撚絲として輸出すること、是もどうしてもやらなければならぬ、以前に私は撚絲の御話を申しましたことがありますが今日は申しませぬ、第四には織物檢査所を設立することを政府に請願して織物の悪弊を改良すること、織物に糊を入れるのを檢査して出すと云ふことをしなければならぬ、第五には染色の改良をなすことを政府に請願して染色の模範所を設けること、是は何分日本で織た絹物を佛蘭西に送つて染めて佛蘭西から又日本に持つて來て日本で縫つて亞米利加に送ると云ふやうな阿房なことは出來ませぬから是非日本で染めなければならぬ、第六織物製造所の設立を政府に請願して横濱附近に織物模範所を置いて我生絲を織物となし又生絲の改良を奬勵し絹織物の利益ある業務なることを一般に知らしむるを目的とすること、且つ此織物は輸出物に限るとすべし、第七是はちと八ケ間敷話で外國繭の輸入税を撤去すること、是を請願せずば將來なるまいと思ひます、是には今日議論のあることでございますが繭を輸入するに就ては或は蠶業者自分の繭が安くなるかと云ふ御考のある方もありませう、けれども自分の繭が安くなると同時に向ふからも持つて來ない、先きに富田君が御話のございました通り支那の繭は大躰安い、安いので夫れで工業家が此方に取るのでございますから其不引合の時には一粒も持つて來ない引合う時には持つて來る、決して我蠶業も不作と云ふことのないことはない、其時に臨んで大きな工場を拵へて居つて繭がなかつたら困る話であるから將來はどうしても繭の輸入税を撤去すると云ふことを當樣の御心頭に掛けて置いて戴かなければならぬことゝ思ひます、餘り長くなりましたからもう是れで仕舞ひます（拍手大喝采）

寄書

繭量を秤り蠶蛾の雌雄を鑑別することに就て

石川縣河北郡金津村
大日本蠶絲會員　森　成次郎

蠶蛾の雌雄甚しく其數を異にして配偶其宜しきを得ざるときは製種家に於て非常の損害を免かれざるものなり雌蛾多きときの如きは強ひて雄蛾をして再度交尾せしむるときは不完全の蠶種を產出するを常とす學理上一時間以上の交尾にて差支なきものゝ如きも其實精液の不足せる爲めか其結果宜しからず是故に製種家は第一完全なる蠶種を得んが爲め第二經濟上其宜しきを得んが爲め雌雄の配偶の宜しきを待つことを所るが如し其上雌雄繭を混同し置くときは蠶蛾は任意の交尾をなすを以て雌蛾の如き

は其四翅未だ全く伸張せざるに早く既に雄蛾より強ひて交接を促さるゝを常とす能く檢すれば雌蛾は交接を欲せざるときは尻を上げ之を避くるの機能を有すること牛馬の如き樣なれども又た強姦と云ふ嫌ひなきにあらず羽化後直ちに交尾せしむるの利害に未だ明ならざるも肉眼上又學理上幹竈十分に發達したる後に交尾せしむるの勝れるに若かざるとの耳に入りし以來茲に數年成繭は可成大引のものを取り肉眼上より雌雄繭を鑑定し別箱に置き或は雄蛾を先に撰び別房交尾框内に容れ次に發蛾せし雌の一時間を經て十分翅の伸張したるを待て之れに配偶せしめなどして完全なる蠶種を製造せんと企だてたり明治二十三年農商務省より松永伍作氏が我地方を巡廻せられしとき繭の重量により雌雄を鑑別することを得即ち平均量より五厘の差あるものは大抵雌雄なりとのことを述べられたり爾來再三重量を秤り雌雄繭を豫め區別し置きたれども百發百中と云ふ譯に行かざりしを以て之れを眞理とせず重ねて其法を用ひず亦た從來よりの上簇期を撰ぶことの二法を取り來りしに昨年來又〻農學士月藤田三郎氏の繭量説出でゝより余も蠶種の改良上之れを等閑に附する能はざるより之れが應用の試驗をなさん爲め繭形鑑定法と比較して夏繭大房に就き試驗したり其結果左の如し

三十年八月十八日即ち上簇後二週間を經し繭二千顆を取り其千五百顆を從來の繭形試驗に供し殘り五百顆を繭量試驗に供したり供試繭は何れも薄皮繭玉繭形狀不整の繭を除きたるものなり而して千五百顆を第一區より左の形狀を有するものを雌蛾と認め八百顆を取り一號となしたり

第一區より左の形狀を有するものを雄蛾と認め七百顆を取り二號となしたり

繭形正整にして長大且つ破風豐圓にして縊れ目淺きもの

又同區より左の形狀を有するものを雄蛾と認め七百顆を取り二號となしたり

繭形正整にして短小且つ破風稍尖りて縊れ目深きもの

第二區五百顆を最初鑑定法を以て雌雄を區別せしに雄蛾と思ふべきもの二百四十六顆雌蛾と思ふべきもの二百五十四顆を得たり然る後之れを秤量して雌雄の區別をなしたり即ち大小百顆平均三十五匁あり而して小繭三匁大繭四匁強ありしを以て三匁五分以上のものを雌とし三匁のものを雄となしたり其數量左に

雄繭區より　三匁のもの　百八十四顆

同　區より　三匁五分以上のもの　六十二顆

雌繭區より　三匁のもの　六十九顆

同　區より　三匁五分以上のもの　百八十五顆

茲に三匁五分以上のもの二百四十七顆を取り第二區の一號とし三匁のもの二百五十三顆を取り第二區の二號となしたり而後八月廿一日より同廿三日までの發蛾數を檢するに左表の如し

		雄	雌
鑑定	第一區の一號より	一一二	六八八
	第一區の二號より	五三二	一六八
秤量	第二區の一號より	八五	一六二
	第二區の二號より	一五〇	一〇三

即ち第一區第二區の雌雄蛾の百分比例を表示せば左の如し

番號	雄の歩合	雌の歩合
第一區の一號（雌區）	一六、〇	八四、〇
第一區の二號（雄區）	七六、〇	二四、〇
第二區の一號（雌區）	三四、四	六五、六
第二區の二號（雄區）	五九、三	四〇、七

余の試驗に據れば繭形鑑定は繭量區別に優れるを見る故に必らず繭量を秤り蛾の雌雄を區別し得るものと斷定し能はざるなり而已ならず繭を秤量するには隨分手數を要するものにしてグラム秤なれば兎もあれ金秤にて十分間に七十顆乃至八十顆一時間に五百顆以内位を通例とす一日十時間秤量するものとせば五千顆凡二斗内外にして僅か種繭の十石以上を要するものにても一日十名をかけて五日間を要す故に迚も言ふべくして行はれがたきものなり又繭形鑑定法にしても雌雄を判然區別すること能はざるものなれば寧ろ在來の方法を執り雄蛾を早く拾ふかX光線の作用を借り蛆害の有無鑑査をなすと同時に撰別する妙法を講ずるの外策なきと思ふ從來の方法とは蠶卵孵化の際は其前後を捨て發生の中蟻を取り飼育し眠起の際は引青出沙法を行ひ蠶兒の成長を均一齊整になし上簇に際せば大引のものを撰み前後を捨て發蛾の時は其羽化の盛りを取り產卵せしめ卵も亦た其盛りを取り製種用に供するを謂ふ

なりこれとても蠻蛆の害の多き年の如きは雌蛾は其害を受くること多くして其配偶の差を生ずること甚だしきことあれども平年には其配偶至りて宜し配偶其宜しきを得ば繭にて雌雄を區別するより發蛾の際最初雄蛾を拾ひ別房に容れ然る後雌蛾の四翅の伸長するを待て拾ひ別房にて交尾せしむるを宜しきと思考す若し簡便にして良法あらば教示あらんことを當業家諸君に乞ふ

洪水と蠻蛆の關係に就て

京都府加佐郡有路下村
大日本蠶絲會員　荒賀莊太郎

明治二十九年の水災は各國共に近時の一大禍害にして特に大雲川沿岸被害の如き古來數百年中稀に見し所なりき即ち上流天田郡福智山附近より加佐郡岡田地方を經て河口、由良に達する沿岸七八里の間濁水奔騰し一面の泥海となり浸水五十尺に及べり加ふるに降雨連日洪水の氾濫すること十餘日家屋を害し田畑を損するもの蓋し擧て數ふべからず而して此地方に於ける桑園は悉く沿河肥沃の地に在るを以て或は激流の衝に當りて桑樹全く流失するあり或は根部の洗流せらるゝあり或は泥土の堆積して幹部の半を埋沒するあり其被害の狀に至ては千差萬別なりと雖も斯業者に大害を與へたること頗る顯著なりとす

然るに當地方に於ける斯業は近年多數の熱心改良家を出し爲に原動機關も進歩擴張の機運に進み前途の盛大日を期して待つべきものありしに拘らず蠻蛆の害毒極めて甚だしく年を逐ふて攻擊の程度を高め侵入の區域を擴むるを以て今に至り之が防禦の術を講ずるにあらざれば將來の影響頗る憂ふべき狀態なりき

凡そ土中に潛伏する蛹は洪水の爲め斃死して翌年に至り羽化するの力を有せず漸く減滅に歸すべしとの一説は之を唱ふる者頗る多く今日にては有力なる一説として傳唱せらるゝ所なるが余輩は前述の如く其勢ひ非常に猛烈なるを患へしも之に抵抗するに數百年來稀有の水害力を以てすることを得たるの好機會に遭遇せしを喜べり換言すれば余輩は激烈なる濁水を以て猛勢なる蠻蛆を攻擊することを得たるなり然るに濁水有效なりしも蠻蛆尙頑固なりしか之れを三十年の養蠶成績に徵すべきは素より理の然當にして所謂論より證據なるものにあらずや

凡そ無稽の風説と實驗せざる世論とは我輩實業家の特に雷同附和すべからざる所にして容易く採用すべからざる所たり余輩の前年に於ける經驗は全く濁流の勢力を以て容易に蠻蛆を征服する能はざりしを見前説の全然信任すべからざることを確めしめたるこそ悲しけれ

現に加佐郡有路上村に設置せられたる養蠶傳習所の如きは其成績の良好なりしに拘らず成繭十中の八九は皆蛆害に罹り蠶種製造に適せず漸く大雲社本部より試驗繭を求めて蠶種製造の實科を教授せり假に之を以て異例なりとするも蠶絲業組合支部事務所に於て組合内各村落普通養蠶家數戸に就き其成繭各五合宛を集め蛆害の歩合を調査せしに左の結果を得たり

養蠶家氏名　種類　上族月日　發蛾數　出蛆數　死繭繭

養蠶家氏名	種類	上族月日	發蛾數	出蛆數	死繭繭
河東村字常津　鹽見喜平治	小石丸	六月十六日	五六	三九	五
同　尾藤　金田彌平	同	十八日	四五	五三	二
同　千原　中岡喜兵衛	同	十六日	五五	三五	一〇
河西村字公庄　藤井竹藏	同	十三日	四七	四六	七
同　豊原　荒木彌太郎	同	十四日	四六	四八	六
河守上村字内宮　荒木善太郎	同	十七日	六〇	二八	一二
同　二俣　西垣久五郎	又昔		三三	六〇	七
同　同　佐藤清次	同		五八	三一	一一
同　横谷　行枝萬之助	小石丸		四一	四二	一七
同　天田内　龜井清太郎	同	十八日	四三	四七	一〇
河守町字河守　滝谷總藏	又昔	十六日	四三	四一	一六
同　同　太田六右衛門	同	十七日	四一	四三	一六
同　金谷　古高勘兵衛	小石丸	十七日	四四	三五	二一
同　波美　岡地善右衛門	又昔	十四日	四七	四九	四
有路下村字二箇　杉下彦右衛門	同	十四日	三二	六五	三
同　同　新井定雄	同	十五日	三五	六二	三

同	市原谷	中野善右衛門	同	十四日	四六	四九	五
同	同	上田孫左衛門	小石丸	同 十五日	六二	三二	六
同	三河	荒木逸蔵	又雷	同 十七日	六五	二七	八
同	高津江	竹山儀次郎	同	十八日	三八	五一	一一
岡田上村字桑個上		黏兵衛	同	同	五四	四〇	六
同	地頭	佐藤善太郎	小石丸	同 十七日	四九	三一	二〇
同	大俣	迫田德蔵	同小石丸 又雷	同	三四	五八	八
合計		二十三名	二二		一〇七四	一〇一二	二一四
平均		百分比率			四六、七	四四、〇	九、三

備考　本調査に係る養蠶家各戸別に蠶兒各齢の用桑摘採桑園の地質地勢等（土地の肥瘠乾濕日光の透射大氣流通の可否山畑若しくは川沿にして人家を離るゝこと幾丁或は人家附近等の區別）詳細に調査せしものありと雖も冗長に失するを以て茲に省畧す

観よ試驗家數二十三戸種數二種上簇日數前後一週間にして最少は百分の二十七、最多は百分の六十五、平均百分の四十四に及び殆ど半數を侵害せるにあらずや此調査は本年初めて試みたるものにして前年より蛆害の增加したるものなるか否やを對照すること能はざるを惜むと雖も前表の示す所を以て水害翌年の蛆害の甚だしかりしは明々瞭々として少しも其間に疑を懷くべからざるにあらずや然るに本會報第六拾四號雜報欄内に岐阜縣名和靖氏の説なりとて掲載せられたる「洪水と蠅蛆の減少」なる記事は前記の如く我地方に於ける實蹟とは少しく異なる所あるを以て茲に餘白を汚し敢て大方の參考に資すと云爾

吉池先生發見蠶兒の小氣門に就き一言す

競進社蠶業講究所卒業生　原　久次郎

余は競進社蠶業講究所に在りて朝夕吉池先生に親炙し蠶躰の解剖病理生理等の研究に從事するものなり然るに先生は研究の結果蠶兒の氣門は從來既知の外更に二個を有せることを發見し大日本蠶絲會報第六拾五號に於て公にせられたり然るに兵庫縣蠶業學校生徒佐々本外二氏は之を異なりとし家蠶、野蠶、柞蠶、樟蠶等に就て實驗せるも縱走氣管枝に向て筋肉様の「キチーン」質附着しあるも皮膚上に向て毫も開口せざるを以て氣門存在せるものにあらずと斷定し而して生理的作用なる氣管の脱出呼吸の如何は探察するの要を認めざるなりと揚言せり嗚呼君等は學に蠶業に從ひ將來有爲多望の士何爲ぞ人の研究説に論難を加ふる反覆審議の上になさずして輕躁浮薄に流るゝの甚しきや先生は君等の説の辯駁としては論點頗る薄弱敎を乞ふの文としては粗暴禮を失し兩ながら之に答ふるの要なしとせられたり然れども余は君等の同學に志せし因緣として一言の忠告をなし君等の疑團を氷解せしめんとす

君等の所説に據れば第一氣門と第二氣門との間即ち第二第三環節の部位に於て縱走せる大氣管は數個の氣管を分岐せると雖も其分岐は他氣門に於て見るが於き一點より出づるものにあらざるを見ると是れ蓋し君等の言を待たざるも明にして先生も亦同一なりと言はず又君等は皮膚に附着する點は氣門に類する斑紋を現はすと雖も毫も皮膚上に向て呼吸口を開けるものにあらずと是れ君等は自ら瞻ることを得ざりしを以て之れ無しと認ゆるは抑も何事なるや先生の小氣門の標本を製し所持せらるゝものは顯微鏡下に於ては一目瞭然其所在を判別し得べし實に君等は人に再究を求むるを知りて自ら之を再究するを知らざるものなり是れ君等に向て忠告せんとする第一なり

君等は又第二第三環節境界點即ち蠶躰の伸縮により重合する部位に向て故らに氣門の開口せんとは他の氣門の例により之を見るも普通の道理より之を考ふるも尙ほ之を容れざる所なりと是れ實に君等をして迷霧の中に彷徨せし要點なり故に少しく之を言はん此小氣門は他の氣門の例によりしならば既に早く數世紀の以前蠶學の何たるを知らざる時代に於て發見せられしことは明瞭なる事實なるべしと雖も他の氣門とは其構造及位置甚しく異なるを以て今日まで發見せられざりし所以なり而して普通の道理より考ふるも容れざる所なりと知らざれども君等の學識是を容ゝ能はざるにあらざるなきか請ふ看よ蠶兒第二第三環節の境界は他の環節とは自ら異なるものあり伸縮開展の際には氣門の開口を全く閉塞するに至らざるを是れ君等に向て更に再究を要せしめんと欲する所にして君等に忠告せんとする第二なり

又灰白色部所謂合接點二個ありと雖も是を探りて直ちに氣門存在の證となすべからずと是れ君等の言

を待たずして明瞭なり先生も單に是のみを以て其證とは言はず然れども兩氣門間に於て二個の接合點ありとし其間に氣門なしとすれば蛻皮の際に如何なる現象を呈すべきや君等の口吻を借りて之を言はば正に他の氣門間の例によらず普通の道理之を容れざるなりと謂ふべし是れ君等に向て忠告をなさんとする第三なり

君等は只慨らくは時期既に逝きて蠶兒の生存せるものなく生理的作用に對しては何等の試驗もなし能はずと嗚呼君等の輕急も亦極れるにあらずや若し今に於て之を研究し能はずんば蓋し春期蠶兒發生の時に際し之を實驗し而して後之を問ふも遲しとなさゝるなり而して氣管の脫出呼吸の如何は探竅するの要なしとは何事ぞ呼吸の如何は未定の問題なるを以て蓋らく置き氣管脫出の一事十分に氣門の存在を證し得るにあらずや（先生は半脫出の標本數十個を製し一個は大日本蠶絲會事務所に送致せられたり）若し氣管の脫出氣門よりなさずと言はゝ余亦何をか言はん是れ君等に向て忠告せんと欲する第四なり

余は君等に一面の讎なしと雖も君等は人の說に直ちに盲從せず多少研究せしを嘉みすと共に其研究の深からずして自ら誤謬に陷り人に再究を需むるの揚言をなせしを惜む而して假に君等の所說理あり人をして信ぜしむるに足るとするも眞理の前には陳腐し實物の前には叩頭せざるべからず先生の調製に係る各種の標本は確に氣門の存在を證して餘あり君等如何に堅白同異の辯をなし人の抗抵するあるも實物に向ては何等の辭なかるべし要するに君等の誤謬を來せし所以のものは研究至らざるの罪なり察するに君等は年少氣銳なりと雖も苟も籍を實業界に列せんとするもの宜しく將來に鑑み輕忽に流れず浮薄に走らず研鑽講究他日國家有用の材となることを期すべし是れ余が婆心自ら禁ずる能はず一言を費せし所以なり

◉問答

◉蠶種の催青に就き質問

廣島縣廣島市三川町
大日本蠶絲會員　平田獅子太郎

蠶種催青の標準及び其方法は如何・

答

大日本蠶絲會技藝委員　理學博士　佐々木　忠二郎

春蠶種催青は桑芽萠出の時期を見計ひ着手すべし蠶種の稍や青み掛けたりと見做さば外氣の温度を計り之れより一度位温を高めたる蠶室に移し入れ其後毎日又は隔日に一度位宛室内の温を高め七十度の温に高むれば能く孵化するものなり

◉殺蛹法に就て質問

栃木縣芳賀郡市羽村
大日本蠶絲會員　藤平園次郎

我邦方にて繭を殺蛹するに大概方六尺乃至八九尺の土藏（天井に深三寸位の穴を穿ち竹筒樣の物を入れ其先にブリキ管を挿入し其管を漸次斜に下向し先の口を止め漸時火の水を煮出す此法並しと云ふ入あり）を造り内を掘り土間となし又は火爐を置き棚を造り籠籠により趾を延くものあり）に繭を入れ棚に蓆し（棚は蒸籠の大小造方によりて差あり）四五尺の處に寒暖計（華氏）を掛け蒸殺する法なるも火力に最初百七八十度にて五六時間火殺し又二日間を經て百四五十度となし凡二十時間前後放置し如斯一回毎に二三十度づゝ引下げ爲すこと三四回然れども右の法にては乾燥となることなく一ヶ月を過ぎすして黴を生ず更に之を防がんため數回の火力を用ふるときは隨て解舒漸く悪く見聞するも大同小異にして未だ完全なる殺蛹法とは信じ難く思料す如何せば黴を生ずるなく又色澤を害せず製絲の際解舒宜しきを得るや其法あらば敎示せられんことを乞ふ

答

大日本蠶絲會技藝委員　農學士　本多岩次郎

殺蛹は上簇後十日目位に行ふを其とす温度は百七八十度にして蛹死したる後は手の屆く限り成るべく早く乾燥するを要す即ち繭を乾燥するには氣稜を十分にし温度は百四十度前後にして熱すべし而して

十分乾きたる後は鑑葉鑵、木箱若くは厚紙袋等に入れ口を密閉し置くときは決して黴菌の寄生することなきなり尤も厚紙袋、木箱に入れたるときは貯藏場所は成るべく乾燥なるところを撰ぶべし又た爰に注意すべきは斯の如く貯藏するには繭は十分乾燥せるものにあらざれば黴菌の發生なきを保し難し故に繭の十分に乾燥せるや否やを確め然る後之を貯ふべし其十分乾燥せるを知らんには繭一升を量り重量三十五匁乃至三十八匁までに輕減せば以て貯藏に適すべきものとす

●萎縮病に罹ること稀なる桑樹の種類に就き質問

福島縣双葉郡新山村　大日本蠶絲會員　山田周陽

(一)近來桑樹萎縮病益ゝ蔓延し殆ど困難の極に達せり各養蠶家も該病に侵されざる桑樹を栽植せんと非常に苦心し居れり然るに近來關東地方に於て栽植せる十文字と稱する種類は萎縮せざるやに聞けり果して然るや否や又十文字と鶴田との萎縮の程度を比較せば何れが多く且つ桑葉收穫の多寡如何伏て教示を仰ぐ

(二)我國に栽植しある桑樹中最も萎縮病に罹らざる種類は如何又該病に侵されざる種類はなしとせば比較的少なき種類及其產地とも伏て教を乞ふ

答

大日本蠶絲會技藝委員　船津傳次平

(一)鶴田と十文字と萎縮病比較は既に廿九年東京西ヶ原蠶業講習所の桑園中二箇所に於て種類取調べたる其成績にあり曰く鶴田八百三十五本の内百七十五本萎縮し十文字七百四十四本の内九十六本萎縮し又別に鶴田六百〇八本萎縮し十文字百九十八本の内萎縮なしとの表あり是に由て推察あるべし

(二)次に收葉の多少は土質と肥料と伐採の時宜等に關するもの故其地に就き親しく試驗して其當を知るに如かざるべし

(二)該病に侵さるゝことは之なしとは斷言なし難しと雖も先づ太大和群馬縣勢多郡にあり本大和同上畦倒同上黑庄土科農大學眞立同上等ならん

因に曰く命根及横根の遠く蔓る種類には該病極て稀なり之に反して淺き所にボロ根の多く出づる種類即ち細江、羅七、山中高助、鼠返等に大概多きを見るなり該病は桑園に適當なる農具の取扱ひに熟練の上土質及氣候を考へて以て巧みに栽培を盡さば大概豫防することを得べし

●製茶室の階上に養蠶室を設くるの件質問

靜岡縣周智郡奥山村　大日本蠶絲會員　高氏元一

平屋造の製茶室の階上に養蠶室を設けんとするに茶の臭氣は蠶兒に大毒なりと聞く然れども下層の茶室は四面開放しあるに由り甚しき臭氣階を上の蠶室に送ることなし設置の可否如何若し可なりとせば其設計法をも併せて教示を乞ふ

答

大日本蠶絲會技藝委員　木村九藏

製茶の臭氣は蠶兒の素より好むものにあらず然れども質問の場合にして二階板を綿密に張り詰むるに於ては著しき障害なかるべしと思考す依て其構造の概要を擧げんに間取其他の明示なきを以て今假りに南向にして奥行三間、間口五間とし之を二間半二室に爲すことを得るものと見做し之に縱三尺七寸五分、横三尺二寸五分の蠶籠百七十六枚を入るゝに適せしめんとす其法東西外部は總て土壁とし兩室中界は障子及欄間を箝め南方は三尺の内廊下を置き外面は悉く雨戸及障子を設け尚一室中央に當る所は上に欄間を箝め外は土壁とす其内部は一室の中央七尺五寸へ三本障子を備へ上に欄間を箝め該障子

は常に取外し置くを法とすと雖も寒夜に際し内温の保持し難き場合は漸次之を閉づることあるべし其左右三尺七寸五分は板を以て密張するか或は土壁と爲し下部に丈け四寸の腰欄間を備ふ又北方外部は南方内部に準ずべきも内廊下なきを以て中央外面に雨戸を備へ左右の腰欄間を廢し總て土壁と爲すべし二階板上面より天井に至る高八尺とし該天井は厚七分巾二寸の貫子を以て二寸明きに張りたるものにて俗に小間返と云ふ此上は薄葦を重剝して以て氣候の變に應ず尤も廊下天井は全幹板張と爲すべし天井より桁下に至る高は一尺二寸とし一室中央七尺五寸の處は南北共亦桁下一尺の欄間を箝め餘は悉く壁地とす此欄間は暑熱甚敷自然室内の鬱塞を感ずる時之を開くとあるべし排氣窓は屋根の葺方に依り素より一定せずと雖も今茲に瓦葺と假定せんに何れも各室の中央屋上に一箇宛設くべきものにて其法奥行三尺間口四尺（寸法は總て内法の計算）とし東西兩側は土壁と爲し南北は下部に丈け八寸の蹴込板を箝め其上部に一尺三寸五分の開閉戸を設け常に室内の扱と相俟て之を開閉し以て氣候の適度を計るべし

蠶蛹檢査に就き質問

宮城縣仙臺市光禪寺通　大日本蠶絲會員　狹川金太郎

（一）茲に種繭一石ありとし之れが發蛾前に微粒子毒の有無を知らんとするには如何なる方法を行ひ檢査用繭を撰出して可なるや

（二）檢査用繭を撰出して蠶蛹中の微粒子病毒を認めたる場合は繭百顆中何顆位までを合格とし又は不合格とするや其百分中の割合を問ふ

（三）一蠶蛹中に寄生したる微粒子毒は蠶蛾幷に蠶種に如何なる歩合にて分殖するものなるや

（四）蠶蛹檢査を行ふには上簇後何日頃を適當とするや

（五）蠶蛹は脂肪分多くして蛾躰蠶種よりは病毒を認むること至難なるに依り蛹の液汁を去り病毒の寄食する部分のみを解きて檢査する方法あらば其多く寄食する名稱を明示ありたし

附言種繭中に微粒子病毒の有無を確め該繭の適否を發蛾前に認め得るときは當業者の幸福にして其實益大なり然るに之れを折角框製として悉く廢棄に歸するが如きは實に不幸と謂ふべし因りては蠶蛹の希望檢査を實行せんとする微意なれば蠶蛹檢査質問項目は詳細に教示せられんことを乞ふ

答　　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　石渡繁胤

（一）發蛾前原繭に就て蛾の病毒の歩合を定むることは極めて困難にして檢査用の繭として微粒子の試驗を行はんとせば遲れて上簇したる繭を以て九十二三度以上の温度を與ふること四五日にして其蛹を檢査すべし

（二）蛹の檢査に於ては蛹百頭中五頭以上微粒子を認めたるものあれば其原繭よりは製種すべからず

（三）蠶蛹の微粒子の蠶蛾並に蠶卵に及ぼす歩合は增加するが如しと雖も一定したる歩合は言ふを得ず

（四）可成遲れて檢するを可とすれども之れによりて製種に用ふるや否やを定むるものなるを以て結繭を十日前後に於て行ふべし

（五）蛹の檢査に於ても少しく熟練すれば困難にあらず若し局部のみの檢査を行はんとせば生殖器を檢査するを以て最も確實とす生殖器は蛹の腹部を背面より剖きピンセットを以て引き出し蒸溜水を加へ擦潰して檢査すべし

蠶種に就き質問

福島縣安達郡杉田村　大日本蠶絲會員　渡邊顯

（一）蠶種を產附するに一母蛾にて凡そ四百粒を產附するものと假定し内百粒の產卵は產附當時の儘にて變色せず俗に白種と稱する卵を產し翌春發生期に至り死種となるは言を俟たざれども外三百粒は

聊か害なく發生するも斯の如き蠶種は如何なるものなるか

(二)春蠶母蛾の產附せし多數の內には夏蠶の如く翌春の催青期を俟たずして發生するものあり是れ等は如何なる理か又發生の兒は害なく飼育し成繭するものなるか敎示を乞ふ

(三)蠶種を檢するに種に微粒子毒の含有を確め蛾に有せず將た又蛾に有し種に有せざるあり是等は他の汚穢物より傳播するものなるや否や有毒の基を問ふ

答

大日本蠶絲會技藝委員　農學士　河原次郎

(一)蠶卵產出後日を經るも變色せずして遂に潰れ種となるは雄蛾の精蟲を受胎せざるものにして一蛾の產卵中に此の如きものを混合するときは他の部分は尋常に發生するも强壯なるを保し難しとす

(二)蠶卵は產出後直に發育を始むれども或る程度に到れば休止し正當の時期に及びて再び發育を繼續して孵化するを常とす春蠶の再出は其產卵發育を休止することなく或は一たび休止するも正當の時期を待たずして再び發育し遂に孵化するものにして即ち夏蠶に變ぜんとする傾向あるを以て躰質概して虛弱なりとす

(三)框製蠶種の卵粒を檢査して微粒子毒を認むるときは其雌蛾若くは雄蛾何れにか病毒あるを常とす若し之れなきは檢査不行屆の徵なり親蛾に病毒を含有するも產卵迄に生殖器を犯さゝれば其產卵に病毒を遺傳することなく又無病健全なる蛾と雌も之を紙袋に容るゝの際に病毒を含有する蛾と相接し若し此蛾を潰して液汁浸染することあらば傳染することなしとせず

●小形微粒子其他に就き質問

岐阜縣可兒郡蘇子村　大日本蠶絲會員　玉置竹次郎

左の件々に就き敎示せられむことを乞ふ

(一)蠶業界に於て小形微粒子と稱する微菌は如何の作用に由りて蠶蛾に寄生するや且つ其蕃殖の狀態及豫防法は如何

(二)桑葉分析の方法如何

(三)春蠶種にして往々局部に再出するものあり如何の作用なるや

(四)蠶繭內に生ずる微の肉眼鑑定法

(五)蛆蠅は交尾後何時間を經て產卵を始むるや

答

大日本蠶絲會技藝委員　農學士　河原次郎

(一)小形微粒子と稱するものは「パチルス、スプチリス」の胞子にして常に塵埃と共に空氣中に飛散し死したる動物及植物に附着し水分を吸收すれば發芽して長方形の「パチルス」となり動植物を組成する物質を壞敗して自躰を養ひ生長するに從ひ分裂して繁殖し水分及養分減少するときは此長方形の躰稍〻固結して胞子となり再び他に移轉せられて發育するを待つものなり蠶蛾無病健全なるときは決して寄生することなし全く其貯藏法を誤るが爲めに此繁殖を招くものなれば採種後成るべく速に蛾を燥殺し且之を乾燥したる後鑵或は箱に入れて密封すべし

(二)分析術は實地に就きて示さゝれば到底理解すること能はざるを以て答を略す但若し化學及植物學に通じ分析表を應用せらるゝ力あるの人は吉井友志外二氏譯定量分析書に就きて其一斑を窺ふを得べし

(三)渡邊顯氏に答へたるものに就きて了解ありたし

(四)繭內の蛹に徵を生じたるや否やは繭の色澤劣變するを見て判別すべし徵繭二三十顆を破らば自ら了解せらるべし

（五）蛆蠅は尋常の昆蟲類の如く養蟲箱の内に於て交尾せず又野外に於ける實際の狀態を調査するは困難にして且つ敢て益あるに非ざれば余は勿論他にも交尾後何時間を經て產卵し始むるや否を知る者なかるべし但早生桑七八葉開くの時に產卵したるを見たることあり

◉統計

◉最近十一箇年間生絲入荷及價格の比較

明治二十年より同三十年に至る十一箇年間横濱市場に於ける生絲の入荷及價格の比較は左の如し

十一箇年間生絲入荷

明治二十年（自六月新絲至同十二月三十一日）	器械	奥坐掛提雜	五三、三五七個
同　廿一年（同　上）	器械	奥坐掛提雜	六三、六三五個
同　廿二年（同　上）	器械	奥坐掛提雜	六五、一七〇個
同　廿三年（同　上）	器械	奥坐掛提雜	五一、八五一個
同　廿四年（同　上）	器械	奥坐掛提雜	八五、一九四個半
同　廿五年（同　上）	器械	奥坐掛提雜	九二、五三五個

十一箇年間市中在荷

廿一年一月一日	器械	奥坐掛提雜	二、六七六九個
廿二年一月一日	器械	奥坐掛提雜	一四八一〇個

明治廿六年（自六月新絲至同十二月三十一日）

同　廿七年（同　上）	器械	奥坐掛提雜	九九、三〇一個
同　廿八年（同　上）	器械	奥坐掛提雜	八九、八五四個半
同　廿九年（同　上）	器械	奥坐掛提雜	一〇八、四一七個半
同　三十年（同　上）	器械	奥坐掛提雜	六五、五二一六個半
	器械	奥坐掛提雜	九九、四三一個半

廿三年一月一日	器械	奥坐掛提雜	九、九〇二個
廿四年一月一日	器械	奥坐掛提雜	二八、三〇五個

廿五年一月一日	器械	奥坐掛提雜	二九、〇三五個
廿六年一月一日	器械	奥坐掛提雜	一、九五六個
廿七年一月一日	器械	奥坐掛提雜	九、八四七個半
廿八年一月一日	器械	奥坐掛提雜	二一、五七二個

十一箇年間外國爲換相場の比較

廿九年一月一日	器械	取濱掛提合付	三三、二二九個	
三十年一月二日	器械	取濱掛提合付	三一、四二二個半	
卅一年一月二日	器械	取濱掛提合付	一二、五九八個	

十一箇年間生絲相場見當

廿六年十二月廿一日	器械	取濱掛提合付	二、七二四個半	
廿七年同上	器械	取濱掛提合付	一、四九三個半	
廿八年同上	器械	取濱掛提合付	四〇二個半	
廿九年同上	器械	取濱掛提合付	一、八〇八個	
三十年同上	器械	取濱掛提合付	二、六四七個半	
三十一年同上	器械	取濱掛提合付	三、三七個半	
二十年十二月廿一日	器械	奥坐掛提雜	三、二〇九個	
廿一年同上	器械	奥坐掛提雜	三、法九十六釜	七十八弗五十仙
廿二年同上	器械	奥坐掛提雜	三、法九十釜	七十五弗
廿三年同上	器械	奥坐掛提雜	四、法	七十七弗
廿四年同上	器械	奥坐掛提雜	四、法廿八釜	八十二弗五十仙
廿五年同上	器械	奥坐掛提雜	三、法六十二釜	七十五弗廿五仙
二十年十二月廿一日	器械	奥坐掛提雜	三、法四十二釜	六十五弗十五仙
二十年十二月廿一日	器械	奥坐掛提雜	三、法九十六釜	七十八弗五十仙
廿一年同上	器械	奥坐掛提雜	三、法九十釜	七十五弗
廿二年同上	器械	奥坐掛提雜	三、法九十釜	七十七弗
廿三年同上	器械	奥坐掛提雜	四、法廿八釜	八十二弗五十仙
廿四年同上	器械	奥坐掛提雜	三、法六十二釜	七十五弗廿五仙
廿五年同上	器械	奥坐掛提雜	二、法四十二釜	六十五弗十五仙
廿六年十二月廿一日	器械	取濱掛提合付	二、法八十六釜	五十五弗廿五仙
廿七年同上	器械	取濱掛提合付	二、法九十釜	四十七弗廿五仙
廿八年同上	器械	取濱掛提合付	二、法四十釜	四十七弗廿五仙
廿九年同上	器械	取濱掛提合付	二、法六十七釜	四十七弗廿五仙
三十年同上	器械	取濱掛提合付	二、法六十釜	四十二弗八分ノ七
三十年同上	器械	取濱掛提合付	二、法六十釜	四十二弗四分ノ三
二、法六十釜	器械	取濱掛提合付	二、法六十釜	四十二弗八分ノ三

二十年十二月廿一日	上掛田共同氷社五人組	信州諏訪器械	七四五弗
	上掛田丸一組	信州諏訪器械	六七〇〇弗
廿一年同上	上掛田安部中崎坐繰	信州諏訪器械	六五〇〇弗
	上掛田共同氷社一頭馬首	信州諏訪器械	七七一〇弗
廿二年同上	上掛田碓氷平社造坐繰	信州諏訪器械	七七八〇弗
	上掛田碓丸虎	信州諏訪器械	七九〇〇弗
廿三年同上	上掛田柏崎繰木造氷社鶏	信州諏訪器械	五五〇〇弗
	上掛田碓一頭馬首氷社五人組	信州諏訪器械	七七〇〇弗
廿四年同上	上掛田碓氷社造坐繰	信州諏訪器械	七〇六〇弗
	上掛田碓一頭馬首氷社五人組	信州諏訪器械	七七〇〇弗
廿五年同上	上掛田碓一頭馬首氷社五人組	信州諏訪器械	八四五〇弗
	上掛田碓一頭馬首氷社五人組	信州諏訪器械	七七一〇弗
廿六年十二月廿一日	上掛田碓一頭馬首氷社五人組	信州諏訪器械	七四五弗
	上掛田共同一頭馬首氷社五人組	信州諏訪器械	六七〇〇弗
廿七年同上	上掛田碓共同一頭馬首氷社五人組	信州諏訪器械	七七一〇弗
	上掛田碓一頭馬首氷社五人組	信州諏訪器械	七九〇〇弗
廿八年同上	上掛田碓一頭馬首氷社五人組	信州諏訪器械	八二〇〇弗
	上掛田碓一頭馬首氷社五人組	信州諏訪器械	八七〇〇弗
廿九年同上	上掛田碓一頭馬首氷社五人組	信州諏訪器械	七五〇〇弗
	上掛田碓氷社五人組	信州諏訪器械	七〇二〇弗
三十年同上	上掛田碓一頭馬首氷社五人組	信州諏訪器械	九〇〇圓
	上掛田碓氷社五人組	信州諏訪器械	八三〇圓
			八五〇圓

●米國輸入生絲統計

昨年十月二十二日附を以て紐育駐在帝國一等領事内田定槌氏より外務省への報告に據れば米國絹業協會の調査せし明治二十九年七月以降本年六月まで一箇年間各國より當國に輸入したる生絲の數量及價格は左の如し

	數量（梱）	歐洲産	歐洲以外ノ産出ニシテ歐洲ヨリ	香港	上海	日本	合計
廿九年七月	價格（弗）			六七、一三五	六七、四三一	六四、二六六	二三〇、四三五
		一六七、三六六	—	七七、一七七	八八、一八〇	二六、九九	二七、七七〇
八月同		一三五、四一六	六一〇	七七、三六	七八、八六〇	二六、八八	二七、七七〇
		一三五、一六六	二一〇	七七、一七七	八八、一八〇	二六、八八	二七、七七〇
九月同		二七、四六〇	二六〇	七七、一七七	八八、一八〇	二六、八八	二七、七七〇
		九六六		七七、一七七	八八、一八〇	二六、八八	二七、七七〇
十月同		二〇〇、六六		七七、一七七	八八、一八〇	二六、八八	二七、七七〇

三十年十一月中生絲類及絹物類輸出入調

（大日本外國貿易月表に據る）

種目	數量	價額	收稅
▲内國産			
生絲	七七五、三八〇斤	六、五七四、九一六、一八〇円	一八三、一八三、六五五
糞絲	二三六、一七八斤	一九八、三〇五、四七〇	五、五七九、七二六
屑絲	三〇六、五九〇斤	二〇六、四〇二、四五〇	二、一七二、九七〇
繭	三〇八斤	六四〇、四〇〇	一一、六六二
空繭	一〇、五七一斤	七、六〇〇、〇〇〇	二三三、〇九七
眞綿	一六斤	四七、五〇〇	一、〇三四

| | | |

輸出			
計	縮緬	四段	六、九八七、九一二・〇〇〇
	羽二重	六九、三七七段	五六九・三七〇
	他の諸絹布類	二、五三五段	九七三、一二九・四五〇
	絹綿布類	五九六段	一五、九三二・八一〇
	絹布手布	六五、〇七五打	三、七〇〇・二〇〇
	絹製品類		一八四、三八〇・七〇〇
			二二、九七五・七一〇
計			一、二〇〇、六八八・二四〇
▲外國產	生絲繭眞綿類	一、六七四斤	二、三九二・五〇〇
	絹紬	四〇〇段	八〇〇・〇〇〇
	縮緬	九段	一八〇・〇〇〇
	他の諸絹布類	七段	二四・五〇〇
計			三、三九七・〇〇〇
▲外國產	生絲繭眞綿類	五八、七二一斤	二五、四六六・六二〇
	縮緬	一四六段	一、二八二・〇四〇
	絹紬	一、三八二段	四、九三三・二〇〇
	縮緬	一、〇三四段	二三、六六一・二八〇
	他の諸絹布類	九八八段	六、五三五・九八〇
輸入			一九一、一八二・一四四
計			一、二七三・三三一
			六四・一〇二
			二四六・六六〇
			一、一八三・〇六四
			三二六・七九九

輸入			
	絹綿繻子	二一、七二三碼	七、八五七・六六〇
	他の絹綿布類	一、八四九段	五七、六九五・二六〇
	其他絹製品類		一六七・四〇〇
計			一二七、五九九・四四〇
▲內國產	縮緬	四段	三二・〇〇〇
	羽二重	一、三段	一、一一七・五〇〇
	他の諸絹布類	八段	八七〇・〇〇〇
	絹製品類		一八四・〇〇〇
計			二、二〇三・五〇〇
			三九二・八八三
			二、八八四・七六三
			八・三七〇
			六、三七九・九七二

（備考）三十年十一月中の外國貿易通計は輸出千五百五十五萬六千三百九十七圓三十四錢、輸入二千二百二十六萬千九百六十六圓四十一錢にして輸入超過六百七十萬五千五百六十九圓零七錢なり

〔參照〕三十年自一月至十一月生絲類及絹物類輸出累計

種目		數量	元價
生糸	生糸	六、一五〇、五五五斤	四九、一八六、七一一・三五〇円
斗糸	斗糸	一、二二九、七四七斤	一、〇〇一、六八七・四九〇
	屑糸	二、四三八、三〇〇斤	一、五五五、三六九、五七〇
	繭	一、一四三斤	二、一三七・五九〇
	空繭	一七、四七八斤	一二、七〇〇・〇〇〇

眞綿	五三斤	一四九・二〇〇	
層眞綿	六二、七〇一斤	一四、六七二・〇〇〇	
蠶卵紙	六枚	二〇・〇〇〇	
計		五一、七七三、四四七・一六〇	
羽二重	九五八段	一一、〇一三・二七〇	
他の諸絹布類	五三八、一四二段	八、一三〇、七一七・一三〇	
絹綿布類	三六、九三八段	二一七、八一〇・三六〇	
絹手布	七、〇七二段	一三、二八四・三一〇	
絹製品類	一、〇九一、三三三打	三、一七九、六七八・三一〇	
		四一四、〇六六・七三〇	
計		一一、九六六、五七〇・一二〇	

◉外報

◉伊國蠶業成績

一昨二十九年中伊國蠶業成績に附き佛國里昂駐在帝國二等領事山田忠澄氏より昨年十一月六日附を以て外務省へ左の如く報告ありたり（本會報第六拾壹號本欄内參看）

昨二十九年中伊國農工商務省の公報を得たるを以て茲に再報して我當業者の參觀に供す

養蠶地方　飼育卵高　一「オンス」ノ收繭高　繭業協會收繭高概算高

ピエモン	一、三五二、二六	四四、三四	二六、九三
ロンバルヂー	三三六、〇〇一	四四、三四	二六、六四三、三三
ウエネチヤー	三〇八、四八〇	四〇、九一	八、七七五、九八六
トスカンヌ	三八、四四四	四四、一二	一、九六四、四三三
ラチユム	一、四九八	四四、三三	六四、〇三三
アドリアチツク海沿岸地方	二、六六六	三三、一六	一三六、三六四
地中海沿岸地方	六、一四〇	三一、九九	二〇四、七一六
			三、一二九

前表に據れば伊國に於て養蠶業の最も盛なるはロンバルヂイ地方なりと雖も每一「オンス」に對し最多量の收繭を得たるはマルシユ、エ、オンブリー地方にして其割合は五十五基強なるを見るべし

◉紐育生絲商況續報

在紐育農商務省實業練習生大木信次郎氏より同地生絲商況に關し昨年十月九日附を以て農商務省へ左の如く續報ありたり（本會報第六拾參號本欄内參看）

本年當合衆國一般の商業は其種類の何たるを問はず數年來嘗て見ざる好況にして是が原因は各州農作物の豐作なりしと麥類其他農產物の價格昂騰したるがため各地方の金融を緩ならしめ且つ新政府の保護政策は內地商工業者の意志を堅固ならしむる等其主因なり又人爲的商業振興の一新案として當地に喧傳せらるゝ商人協會の働即ち當地の重なる問屋業者の主導に依り此協會を設置し各地方より當市に來る商品買入者（各季節に應じて新商品を仕入れんがため來る者）にして之が會員たる者は各鐵道賃銀の特別割引（一割五分）を爲し爲に各地方商品賣行の繁忙を來したると同時に當市に來る買込者の往復を盛ならしめ從て各問屋業者共に著しき賣上高を增加せしめたり

右に因り一般「ドライ、グーヂ」の需要を增加すると同時に絹織物に於ける取引頗る盛にして各機業者とも製織力の及ぶたけ注文を引受け之がため分工場を增設若くは新會社を創設する等ありて一方には勞働者の同盟罷工を避けんがため機業場を新地方に移轉する等今日に至るも尙ほ止まざるなり而して保護重稅は到底歐洲絹織物の當國に輸入するを許さゝるものなるが故に伊、佛に於ける大製絹者は新工場を當米國に新設せんとし現に伊太利國有名の製絹家二三は既に重要の代理人をバタルソンに派して土地其他賣收に著手せりと云ふ此の如き狀況なるを以て生絲商業上に於けるも亦數年

養蠶地方　飼育卵高　一「オンス」ノ收繭高　繭業協會收繭高概算高

エミリー	六六、八四一	四二、四四	二、九七、六六九
マルシユ、エ、オンブリー	三七、三六〇	四五、三一	二、四四三、三三六
シヤルデイ島	一、八、三二九	二一、三五	三、〇一、一三六
サルデニユ島	四四三	二六、三三	一、二二九
計及平均	九四〇、一三五	四一、〇四	三八、八四四、四六六	四一、八三
リギユリー	三、八六一	三一、九九	一、八六、四四三

來見ざる革新の時機を來さしむるに至れり又新絲の未だ市場に現れざる以前に於て一般機業者は原料の騰貴を慮り資本に餘なるものは盛に古絲を買込みたるものゝ如し然れども其當時は未だ農作物の收穫を終らず各地方の商業未だ振興せざるを以て機業者にも亦夥多の注文ありと云ふにあらず故に普通機業者は當用日を買入るゝに過ぎざりしも間〻當時の相場を以て買入を先約せし者少からず故に之に應じたる生絲輸入商は今日に至り案外の損耗を爲せし者あり而して新絲の市場に現るゝ頃より市況は振動し來り横濱の賣價は常に當市場の相場に比し五仙乃至十仙の高價を示し横濱の市價昂騰すれば隨て當地も昂り常に下落の趨勢を聞かず然れども今後の趨勢を熟考すれば今日の相場は既に騰貴の極點に達したるものゝ如し左に市場今日の唱相場を掲ぐ

日本機械	飛切上	三・九〇—八五〇	三・九五〇
	飛切	三・八〇—七五〇	三・八〇〇
	一番上	三・七〇〇	三・七〇〇
同　糸繰	一番	三・六五〇	三・九〇〇
	一番半乃至二番	三・四二五	二・八〇〇
支那機械	飛切		三・五〇〇
	一番上		三・七〇〇
	二番上		三・九〇〇
唐賣糸繰	飛切上		三・八〇〇
	飛切		三・五〇〇
	三番上		三・三〇〇
	（以上六箇月延）		
伊太利	飛切上「ピント」		四・〇〇〇
	飛切上「ロンバート」		三・九〇〇
	一番上		三・七五〇
	一番		三・六五〇
	飛切		三・八〇〇
	（以上六十日延）		

前掲の趨勢より察すれば生絲市場の旺盛今後如何の點に達すべきや測知すべからずと雖も亦之を障害すべき理由は既往に於て機業者の有する注文は何れも巨利を見込ての注文にあらず換言すれば機業者は原料に向ひて高價を仕拂ふの餘地なきが如し是れ今日實際に於て横濱市場に成立したる價格を以て機業者に買入を申込むも皆驚きて應ぜざるが如き又今日在横濱の商館等は如何の見込に依り買入るゝやは之を知らざるも實際の取引上に於て當地に在りては未だ現れざるの相場なりとす又伊太利に於て繭の原料安價なりしは事實にして伊太利絲一番三弗十五仙内外に於て買入を爲せりと云ふ然らば今日の相場に於て五十仙以上の巨利を占むる割合に於て本年は恐らく伊太利製絲家の如く巨利を占むる者は他に之あらざるべしと云ふ而して今日一の變調と云ふべきは伊太利、日本、支那の三絲共に其賣價の差極て少きことなりとす是れ決して道理上永續を期すべからざる事實にして其品質日本品のみ相當の進歩を爲せりと言ふに決して然らず全く一の變調として見るの外なし又市場に傳ふる如く去月上旬支那絲多數の先約賣の約定ありしは事實にして其摘數大凡支那產出高の過半に及べりと云ふ故に漸次此絲の當市場に現（此先約は多く歐洲輸入商の行ひし所なりと雖も轉じて當市に來るもの亦多きに居らん）るゝに至らば徐々に供給を豁なりしむるに至るべし此の如く種々の事象を通觀すれば今日の市價は幾ど其頂點に達せしものにて今後甚しき下落はなしとするも亦此上の暴騰は爲さゞるべし故に横濱よりの最近電報に據れば元來投機を以て主眼とする横濱商館も向ほ買入に躊躇し又當地の輸入商も幾分か賣急の形勢なきにあらざるが如く一方に於ては機業者も當分自己の機續注文に供する原料は先約或は時價買入を以て不足なきまでに買込を終りたるを見れば益〻之が事實と爲らん故に本邦製絲家にして横濱なる投機外商等の擧動に據りて後來を推測せんか是れ大なる謬見なり現に或る外商の如き數年來の失敗に數萬の資產を蕩盡し尙ほ投機を爲しつゝ之が恢復に狂するが如き最も注意すべき事實ならん要するに現時は絲價の高下を爭ふよりは寧ろ製絲の品質を向むるを利とす即ち二三年前に在りて本邦生絲は大に其品質を良好ならしめたる昨年に至りては機業者の評判惡しく殊に「デニール」の如き本邦の十三中は決して此地の十三中の引當と爲らず多くは十三半又は十四中に及び其他十四中或は十五中等皆太きに過ぐるものゝ如し是れ最も機業者の嫌忌する所にして若し十五中に走らんか殆んど其目的に用ふること能はざればなり故に「デニール」は十四中と云へば十三・六〇以上十五・四〇以内を規則とすれども實際は十四の上下、十五の以外に走れば喜ばざるを常とす故に一俵と雖も以上規則に過不及のものあらば之を使用するに躊躇するや明なり然るに此點に於て伊太利絲の整格なるは實に驚くべく十一中と云へば悉く十一前後の「デニール」にして若し一俵と雖も十二中細目に及ぶものあるときは一斤に附き二十仙乃至二十五仙の直引を爲さゞるはなし日本絲に在りては素と引當と爲らざるものなるが故に此點に於ては甚しき直引其他の手數少しと雖も是れ即ち日本絲品質不良の點なりとす切に望らくは伊太利絲の如く直引の取引を生ぜしむるに足るべき生絲を製出せんことを要す又一の注意すべきは支那絲品質の改良年一年に其效果を現し廣東坐繰は論外として支那蒸氣機械絲の價日本絲に比し常に良價を保持し（昨年は產額の增加と共に品質粗惡に流れしもの少からざり一由）且つ其產額も急劇の增加を爲しつゝあるは我製絲家の大に注意を要する所にして若し自己製絲の粗惡なるを度外視して單に高價を僥倖せんと

するは是れ斯業のため痛惜に堪へざる所なり

◉伊國千八百九十七年の繭收獲

ミラノーの信憑すべき筋より伯林商業會議所に達したる報告に據れば伊國本年の繭收獲高は前年より減少したる見積にして種々の方面に於てしたる其見積計算孰も一致せり

昨年夏季の氣候冷氣にして桑樹の發育不良なりしがため養蠶者は本年に於て桑葉の不足すべきを憂慮せり此事情に加ふるに生絲の相場も下落したれば自ら蠶種の養成高減少せしも實際に於ては桑葉の發生一般に良好にして其供給は需要に超過せし程なり且つ最終の時期に於て温度の高きに過ぎしがため或る地方に於ては蠶兒病の發生せしにもせよ概して氣候は蠶兒の發育に適せり然れども右の如く養蠶業減縮せられたるがため繭收獲高は終に減少を免れずして平年の收獲高に比し二割五分方減少したる見積なり

最終の時期に於て温度高かりしに因り繭の重量は前年より大なりしも紡績業者の斷ふる所は養蠶者の蠶種を撰擇するに方り品質よりも寧ろ數量に重きを置くを常とすと云ふに在り

新收獲の繭相場は先づ前年よりも低廉なるも其販賣者に於て發賣を控制するに因り漸次其相場は騰貴するの模樣あり殊に品質良好のものに於て然りとす凡そ繭の收獲後に於て一般の見込は相場の騰貴すべきを期待するを常とするが本年は其期待の空からざるべき事情なきにあらず何となれば本年の收獲は右の如く減少し他の養蠶諸國の收獲報告も不良にして在來の貯藏高も減少したればなり

日本の輸出奬勵金に關する新法律に依り生絲市場に喚起せられたる同國の競爭に對する危懼は未だ消滅したりと云ふにあらざるも需要の增加に依り相場の上騰すべき望あることは世人一般の信ずる所にして英國に於ては既に昨年覩典の際に方り絹物の需要頗る增加したる模樣を呈し其他の歐米諸國に於ても其需要益ゝ增進すべき狀況ありと云ふ

紡績業者は既に數年來著しき利潤を見る能はずして唯今日に在りては相場の騰貴すべきことに屬望するのみ（昨年十月七日濠國商業博物館週報）

雜報

◉御手製の打敷

英照皇太后の至仁至德なる田圃の耕耘蔬菜の栽培を見そなはしては其勞苦を憐ませられ又生類を憐ませ給ひて深く殺生を戒しめ給ふ御一世の聖德擧て數へ難き其中にも最も恭敬追慕し奉まつるは國母の御躬として親しく養蠶の業を執らせたまへるの一事たり承はるだに畏き御事ながら青山御所の御苑の內に於て養蠶室を作らしめ給ひ蠶兒を養はせらるゝより簇に上りて繭となるまで侍嬢の手を待せられざるのみならず譜中の繭は躬づから蠶に上せ給ひて數斤の絲を得させ給ふ是れ婦女の身としては貴となく賤となく凌ぐの道を知り得べきものぞとの御訓戒の外ならざれども九重の雲の上詠歌彈箏の優美なる中に御躬を置かせ給ふべきを殊さら卑賤の業をみづから爲させ給ふ勤儉の大御德追想する毎に感涙の流るゝを知らず

さて右の如く大御親づから採らせ給へる光輝ある絲を染めさせられ御意匠を凝らさせられたる模樣を以て矜篋に上せられ織成したる錦綉を以て　天皇　皇后兩陛下の御服に進ぜられ尙又た年毎に親しく蠶絲を繰きて織らせ給へるものを以て泉涌寺靈明殿內　先帝の尊牌前なる御香爐の卓に蔽ひ掛させ給ひ尙其一は東福寺靈牌殿內御父尙忠公の靈前に供へさせ給ひたりとは豫て承はるところとす幅五尺竪五尺幅は織地の三幅になりて方形なる御打敷は慧日山東福寺の寶庫に收めてあり是ぞ則ち　英照皇太后御手製の絲を以て織成せる織地を御父太閤の靈前へ進め給ひしにて地色は薄綠殆ど草色ともいふべくして是に紫色の立湧を織下し湧中には靡の花葉を織あらはして總地の模樣となし此模樣の上より銀鼠と覺しき最も光輝ある染色にて菱形を散し菱は二個の靡の花房の斜めに曲りて向き合たる模樣に成りたり色彩配合の高尙にして優美なる緞子の如くにして綾ある織地の日光に映じては金銀絲の交ることなくして然かも光彩絢爛として目を射る如きは所謂色の配合其宜しきに適する所にして之をしも國母の御意匠に成たりと承はりては機業の上に深く大御心を盡さしめ給ふことを推し量られて惶こしなんどいふ許りなし彼の泉涌寺の尊牌前御香爐卓の御打敷織物も同じ織地なりと承たまはるも畏こし

◉沖繩縣の養蠶は本年十五日頃捕立の見込にて生徒も十五名程志願者有之目下準備中に御坐候氣候は昨今七十度内外にして毎日雨天のみ適き晴天あれば蒸熱甚敷蠶期中の困難思ひやられ申候本年は六月比まで六回飼育又九月比に至る繰用入工越冬法を以て秋蠶試驗を致す計畫に御坐候云々と一月七日附を以て同縣技手藤戸竹綱氏より本會幹事高橋信貞氏宛通信の端に見へたり

◉臺灣の養蠶試驗成績續報　臺灣總督府民政局の調査に係る第一期より第四期に至る試驗成績の概況續報左の如し（本會製繭六拾四號本報内參看）

本年三月初旬に於て第一期の掃立を始め同八月三十日第四期の收繭を了せり其成績は第四期に於て稍て不良なりしも他は皆健全なる蠶兒の發育を遂げ良好の收繭を成すことを得たりと雖ども當部の養蠶試驗たるや緣に咋年の創始に關するを以て謹慎の準備未だ全く整頓せず隨て試驗に於ける作業も或は精密を缺く所なき能はず故に獨り本試驗の結果を見て直に本島の養蠶業に對する確案を下すは固より難しとすると雖ども數回の試驗に於ける經過と成績とを對照考査せば此幾くは本島蠶業の大體を窺知するを得んと

試育所の位置及蠶室の構造　土人の家屋は一も養蠶に適當なるものなきも他に方法なきを以て已むを得ず之を使用せり而して桑葉採收の便宜に依り二箇所に分ちて一部を拵接螢村林筱庄に屋き前者を第一試育所、後者を第二試育所と假稱せり第一蠶試育所の蠶室は元來物置樣の一室にして間口五尺、奥行六尺始ど正方形にして東南北の三面は板壁を以て閉ひ西の一面は全市製の簾を垂れ搬垂を自在ならしめ天井及下床は共に板を以て張り空氣流通のため天井に設くる入口は一箇所にして南北二方の壁上に各各一箇の明窓あり四方土壁の高さなきを以て室内湿度の急變を避くることを得たり

蠶の外氣の侵入することなきを以て室内湿度の急變を避くることを得たり

蠶の種類蠶期の貯藏及孵化　本年試育に供せし蠶は十二種にして第一期は其中十一種を飼育し第二期は四を原産小石丸、夜蛾蛹種及角又の三種、第三期當に於て奮起種は昨春當部に於て製したるものにて之を貯蔵に就きては最も苦心を費せり固より適當の貯藏庫なきを以て唯常住者ある一室に吊下し勉て注意を加へたるも氣温の變動常なきため種卵は異狀を発し本年一月より已に紙面に發生蟻を見るに至れり而して發生の蟻兒赤黃花の蔵紙にして結繭に至らずして斃れたるもの多し蔵原種も赤蠶薄種と同樣の貯藏法を取りしも發生蟻の狀態は赤黃薄種と同樣にして敏捷虚弱の蟻兒なれども然るに二齡期後に至り頗る強健に發育し終に好結果を見るに為得たりは意外なり又本種は前段四回の發生を為したるを以て引續き飼育を試みしに三期までは何れも好成績なりしが第四期に於て針多の不良蠶を出し甚しく收繭を減ぜり最れ主として氣候の關係と蠶室の不良とに基因するものゝ如し憶ふに本種は蟲質肚健にして飼育し易く最も本島に適當の良種なちんや各府縣の蠶種早きは到着翌日、晩きも二三日以内に於て發生し原都所蔵を除くの外は孰も良好の成績なりと為すべし

桑葉採收　蠶兒飼育上唯一の必要物たる桑葉採收の困難に就きては決して内地養蠶家の想及ばざる所なるべし當初飼育所の位置を定めんとするや第一の要件は飼料欠乏の虞なき地方を擇びんとすれども在りて先づ桑樹所在地の發見に從事し蕃北地方數里の外に出でゝ田野、丘陵、峻阪、谿谷共に敢諸搜索したる後稍く供給不足なき飼料の所在を認めたるより採取の便に依りて飼育所を大稻埕、樟腦廠の二地に分置するに至れり即ち第一蠶試育所に要する桑葉は蕃北地方近の路傍人家の後園又は田圃の周畔に野生せる桑樹を採り第二蠶試育所に要する桑葉は蕃北地方大安寮山、沛縣敢及石鼎寮山、鳥龜田山又は冷水坑庄、十八份山等の中腹或は頂嶺に繁生せるものを摘み以て缺乏なく飼料の供給を為すことを得たり桑葉の摘採は稚蠶期に在りては毎日午前八時より同十時までとし朝露の存する間は決して摘葉せしことなし蠶兒漸く生長して多量を要するに至りては午前午後各々一回づゝ摘み取る為めに第一期の蠶兒の発し蠶期は為に氣候乞亡び發生其ものゝ成績は甚だ不良なりしも第二期に於ては第一期に比し桑葉の採收地の距離に在るを以て午前の摘葉に時間を費すことは日中遥遠の際に差測するを以て已むを得ず午後は日没まで摘葉し之を布袋に盛りて常に温調を與へ或は水を盛りたる桶の上に製茶待囊を倒伏せ其中に貯蔵する等の方法を取れり此法に據れば能く兩三日を保持することを得ず本島の野生桑は四時青々として潤落することなく内地産桑葉の如き萎黄を見ざるは全く其成長力の壯なるため枯頭に繊葉を生ずるの日ならずして乍ち硬化するの氣候及飼育上の注意　氣温の適否は養蠶上に注要の關係を有すること言を俟たず而して本島の如き冷熱乾濕頻變の地に在りては殊に然りと為す第一期より第四期に至る間氣候の變遷を述べんに

第一期多く蠶天若くは雨天にて冷湿甚しく而して稀に快晴なれば温氣遽に上昇す風向は東又は北にして東風には冷にして乾燥し北風には暖にして湿氣を含み雨の前兆を作す之常なり或は降雨數日に亘りて已まず或は朝霧空を蔽ひ霧散すれば乍ち強熱を為す等変化を為す第二期は雨天にて乾燥甚だしく而して稀に快晴なれば温氣遽に上昇す風向は東又は北にして東風には冷にして乾燥し北風には暖にして湿氣を含み雨の前兆を作す之常なり或は降雨數日に亘りて已まず或は朝霧空を蔽ひ霧散すれば乍ち強熱を為す等変化を為す第三期は雨天にて乾燥甚だしく而して稀に快晴なれば温氣遽に上昇す風向は東又は北にして東風には冷にして乾燥し北風には暖にして湿氣を含み雨の前兆を作す之常なり或は降雨數日に亘りて已まず或は朝霧空を蔽ひ霧散すれば乍ち強熱を為す等変化を為す第四期は雨天にて乾燥甚だしく而して稀に快晴なれば温氣遽に上昇す風向は東又は北にして東風には冷にして乾燥し北風には暖にして湿氣を含み雨の前兆を作す之常なり或は降雨數日に亘りて已まず或は朝霧空を蔽ひ霧散すれば乍ち強熱を為す等変化を為す（首期より四期に至る間の最高温度を示せり）

第一期は雨天にて冷湿甚しけれども時に薪材を焚き又は少量の炭火を用ひたることあり而も火力のみにて尚ほ十分に湿氣を拂ふこと能はざるときは煙燻を薄く蠶座に撒布し除沙間數を増し給葉量を加減して繊に乾湿の變に應ぜしめたり湿度は湿計を缺きたるを以て專ら飼育者の感能に據り往往を湿氣多量にして殆ど泡和度に達するを覺へたり）

第二期は雨日續にして晴天打續き爲に往々乾燥過度に失することあり風は西又は北にして絶えて東風の涼を送るなきを以て室内の湿氣滯留して臭氣を放つことありきも未期に於て最も切要なるは室氣の流通に在りしを以て常に蠶室を開放して瓦斯の排出に勉めたり除沙は一齡に於て二回、二齡三回、四齡以後は一回又は二回之を行ひ桑葉は前期に於ては長方形に剪切したるも本期には角若くは長方形に切斷し五齡三日目より稍葉を給せり）

第三期は氣候不順にして一日の中除晴雨無々變化或は降雨數日に亘ることあり風向は西又は東にして西風の日は午後に至れば霧雨の第四期は雨天にて乾燥甚だしく而して稀に快晴なれば温氣遽に上昇す風向は東又は北にして東風には冷にして乾燥し北風には暖にして湿氣を含み雨の前兆を作す之常なり或は降雨數日に亘りて已まず或は朝霧空を蔽ひ霧散すれば乍ち強熱を為す等変化を為す

第四期は前期に比すれば雨少し唯時々驟雨あるのみにして風向は西又は北にして東風の日は午後に至れば霧雨の第四期は雨天にて乾燥甚だしく而して稀に快晴なれば温氣遽に上昇す風向は東又は北にして東風には冷にして乾燥し北風には暖にして湿氣を含み雨の前兆を作す之常なり或は降雨數日に亘りて已まず或は朝霧空を蔽ひ霧散すれば乍ち強熱を為す等変化を為す

第四期は前期に比すれば雨少し唯時々驟雨あるのみにして風向は西又は北にして東風の日は午後に至れば霧雨の第四期は雨天にて乾燥甚だしく而して稀に快晴なれば温氣遽に上昇す風向は東又は北にして東風には冷にして乾燥し北風には暖にして湿氣を含み雨の前兆を作す之常なり或は降雨數日に亘りて已まず或は朝霧空を蔽ひ霧散すれば乍ち強熱を為す等変化を為す

第四期は前期に比すれば雨少し唯時々驟雨あるのみにして風向は西又は北にして東風の日は午後に至れば霧雨の第四期は雨天にて乾燥甚だしく而して稀に快晴なれば温氣遽に上昇す風向は東又は北にして東風には冷にして乾燥し北風には暖にして湿氣を含み雨の前兆を作す之常なり或は降雨數日に亘りて已まず或は朝霧空を蔽ひ霧散すれば乍ち強熱を為す等変化を為す

第四期は前期に比すれば雨少し唯時々驟雨あるのみにして風向は西又は北にして東風の日は午後に至れば霧雨の第四期は雨天にて乾燥甚だしく而して稀に快晴なれば温氣遽に上昇す風向は東又は北にして東風には冷にして乾燥し北風には暖にして湿氣を含み雨の前兆を作す之常なり或は降雨數日に亘りて已まず或は朝霧空を蔽ひ霧散すれば乍ち強熱を為す等変化を為す

第四期は前期に比すれば雨少し唯時々驟雨あるのみにして風向は西又は北にして東風の日は午後に至れば霧雨の第四期は雨天にて乾燥甚だしく而して稀に快晴なれば温氣遽に上昇す風向は東又は北にして東風には冷にして乾燥し北風には暖にして湿氣を含み雨の前兆を作す之常なり或は降雨數日に亘りて已まず或は朝霧空を蔽ひ霧散すれば乍ち強熱を為す等変化を為す

第四期は前期に比すれば雨少し唯時々驟雨あるのみにして風向は西又は北にして東風の日は午後に至れば霧雨の第四期は雨天にて乾燥甚だしく而して稀に快晴なれば温氣遽に上昇す風向は東又は北にして東風には冷にして乾燥し北風には暖にして湿氣を含み雨の前兆を作す之常なり或は降雨數日に亘りて已まず或は朝霧空を蔽ひ霧散すれば乍ち強熱を為す等変化を為す

第四期は前期に比すれば雨少し唯時々驟雨あるのみにして風向は西又は北にして東風の日は午後に至れば霧雨の第四期は雨天にて乾燥甚だしく而して稀に快晴なれば温氣遽に上昇す風向は東又は北にして東風には冷にして乾燥し北風には暖にして湿氣を含み雨の前兆を作す之常なり或は降雨數日に亘りて已まず或は朝霧空を蔽ひ霧散すれば乍ち強熱を為す等変化を為す

第四期は前期に比すれば雨少し唯時々驟雨あるのみにして風向は西又は北にして東風の日は午後に至れば霧雨の第四期は雨天にて乾燥甚だしく而して稀に快晴なれば温氣遽に上昇す風向は東又は北にして東風には冷にして乾燥し北風には暖にして湿氣を含み雨の前兆を作す之常なり或は降雨數日に亘りて已まず或は朝霧空を蔽ひ霧散すれば乍ち強熱を為す等変化を為す

にして上蔟に際し節高病、軟化病等の壓蠶を出せし外他は皆善く發育して成績好良なり

第二期試育蠶種中四ヶ原産小石丸は一齢二齢を經て三齢盛食期に至る迄は健全にして無異狀なりしが三齢期就眠に近くに及び蠶兒の擧動不活潑にして發育亦不齊なるに至れり而して四齢餌食後二日にして數多の空頭蠶を出し嗣後病蠶出現は五齢四日目より空頭落百頭乃至二百頭を出したるも甚だ僅少にして止めり盛桑種は始終一頭の病蠶を見ず種て健全發育し結繭も亦長好なりし

第三期試育は六月十五日を以て掃立を為し一齢は三日二時、二齢は二日二十三時、四齢に三日三時にして就眠し各齢共に良育齊一且つ強健僅に四齢中に於て數頭の空頭蠶を出したるのみにして五齢餌食後六日にして上蔟を始め成繭頗る良好なる為得たり

第四期の試育は七月廿九日を以て掃立を為し一齢は三日二時、二齢は二日十三時、三齢は二日八時、四齢は三日五時にして就眠し五齢餌食後六日にて上蔟を始めたり本期は發育の度甚だ遲鈍にして一齢を經て二眠に近くに及び蠶兒不齊を為り或は既に眠に眠に就くあり或は染だ發食期に達せざるあり又或は起蠶數頭を其中に發顯する等到底同一時に集止を為す能はざるを以て終に最も後れたるものを拾て投蔟し後一日を隔てし蠶兒の狀況を視るに起蠶の外は皆易に餌食し得るものの多きを認めたるを以て著しく蠶數を減ず其後二眠起三日に至るも猶は增殖の必要なく為に稍〻蠶兒發育の齊一を見るを得たり然るに三眠に近き得ず不揃を為り就眠に際し十九頭の遲蠶を出すに至れり乃ち大小に依りて蠶兒を二分し以て就眠せしめ二回の發育を八月二十日を以て全く終了せり

天然飼育　天然飼育は日光、風及雨露の直接受入せざる室内に於て火力を用ひず自然の溫度に放任し單に天候の乾濕に隨て蠶座に注意を施し給桑も亦蠶座乾燥の度合を見て加減し更に一定の標準に依ざるの方法にして第一期に於て之が試驗を為せり本試育には靜岡縣産角又、福島縣産均白、四ヶ原産青繭の三種なり飼育中の溫度は概して普通蠶室よりも低溫にして隨て濕氣亦常に過量なるを以て蠶兒の發育亦遲緩眠起に際し不眠蠶を生ぜず眠起後普熱に上蔟に際し軟化病、節高病等の廢蠶を生ず又終末上蔟の一齢には多くの屬敗蠶を出し結果甚だ良好ならざりしも他の二種は略三齢期に於て少許の病蠶を生ずるのみにて無事結調するに至れり然れども國の形體は普通蠶に比すれば稍〻小なりと雖病及其原因　本年各期飼育中種々の病蠶を出せりと雖も中最も多きは空頭蠶不就蠶なりとす而して其病因の主なるものは全く濕氣の濕度と蠶室の不完全とにあるを認む京都産蠶の多く不眠病及軟化病を發したるは其病原の基因する所同一ならざるを以て之が解案を下能はざるも其取扱に於て他に如何にや然れども未だ大害に供したり然るに同育中非常なる景況なり（此の如き家は春蠶には不適當なり）余も遂に其害に罹りたれば聊か感ずる所を記し四化生蠶飼育失敗談を草し以て同業者の參考に資するあらば幸甚

本年八月十八日四化生角又蠶種蟻量三十六匁八分を掃立て爾來初眠二眠共に經過至極宜しかりしが三齢盛食期に至り大旱の爲に桑葉缺乏せしに因り止むを得ず少しく過度の硬葉を給したるに三眠を催すに至りて聊か不揃となるの感あり（以て幾分か蠶兒をして虛弱ならしめしやも計り難し）而して眠中蠶沙の乾燥すること船津先生の所謂吸頃の烟草位にてありき此時思らく春蠶なれば此の如きを以て適度沙の乾燥すること船津先生の所謂吸頃の烟草位にてありき此時思らく春蠶なれば此の如きを以て適度となすべけれども夏秋蠶にては如何にや然れども未だ大害に出るべしと決心して下棚は取下し南北の障子を細目に開き南外部に蘆簀を建て之より乾燥せしめざるを以て度となしたり時に室内溫度華氏平均八十二度許乾濕計の差平均四度即ち濕度八十度にして寧ろ濕氣多きやの感ありしが起蠶出づるに及びて之を熟視すれば臀部に黑褐色の尿液を漏すもの十分の一位あるを認めたり嗚呼仕成したりとは思へども詮方なければ早く桑附を為し第二回目の給桑には粉糠を散布し起裏取りの準備をなし夫より給桑一回は一回より病蠶を倍發し蠶肺縮小して全身透明となる之れ起縮病なり蠶肺縮小せずして第二第三環節赤色透明となる之れ空頭病なり時に病蠶の二三を採りて顯微鏡下に照すにミクロコックスを認めたり夫より厚飼にし日裏を取る等種々手を盡したれども終に回復するの見込み無きに至りたれば全部を擧げて廢棄したり是に至り夏秋蠶の飼育法は大に春蠶と異なる點あることを發見せり如何となれば初眠二眠の蠶沙は大に濕潤にして霖雨中の烟草位なり此時に於ける眠起の最も良好なりしにも拘はらず反て彼の吸頃の烟草にて失敗したり之れ氣候の異なるが故に蠶肺に感ずる所も亦大に相違ありと見へたり果して然らば將來夏秋蠶飼育の際蠶沙の適度を計らんが爲め「しけぶりの烟草夏秋蠶の蠶沙かな」又何時にても眠中に障子を開けば害あるものと思ひければ「眠るかひこにや障子を閉ぢよ開けりや蠶沙が乾くぞ〳〵」と戯にくちずさみ置きぬ云々

高津仲次郎氏調査

化生の本場にして年々四化生を飼育せり余も亦例年の通り四化生を飼育せんと欲し蠶種を信用ある所にて製造せしめ且つ顯微鏡的檢査を行ひ無毒のものを以て飼育の料に供したり然るに同育中非常なる大旱に遇ひ失敗するもの比隣相連り只四方樹木に在るが如き家のみ蠶兒を殘したるの景況なり（此の如き家は春蠶には不適當なり）余も遂に其害に罹りたれば聊か感ずる所を記し四化生蠶飼育失敗談を草し以て同業者の參考に資するあらば幸甚

本年八月十八日四化生角又蠶種蟻量三十六匁八分を掃立て爾來初眠二眠共に經過至極宜しかりしが三齢盛食期に至り大旱の爲に桑葉缺乏せしに因り止むを得ず少しく過度の硬葉を給したるに三眠を催すに至りて聊か不揃となるの感あり（以て幾分か蠶兒をして虛弱ならしめしやも計り難し）而して眠中蠶沙の乾燥すること船津先生の所謂吸頃の烟草位にてありき此時思らく春蠶なれば此の如きを以て適度となすべけれども夏秋蠶にては如何にや然れども未だ大害に出るべしと決心して下棚は取下し南北の障子を細目に開き南外部に蘆簀を建て之より乾燥せしめざるを以て度となしたり時に室内溫度華氏平均八十二度許乾濕計の差平均四度即ち濕度八十度にして寧ろ濕氣多きやの感ありしが起蠶出づるに及びて之を熟視すれば臀部に黑褐色の尿液を漏すもの十分の一位あるを認めたり嗚呼仕成したりとは思へども詮方なければ早く桑附を為し第二回目の給桑には粉糠を散布し起裏取りの準備をなし夫より給桑一回は一回より病蠶を倍發し蠶肺縮小して全身透明となる之れ起縮病なり蠶肺縮小せずして第二第三環節赤色透明となる之れ空頭病なり時に病蠶の二三を採りて顯微鏡下に照すにミクロコックスを認めたり夫より厚飼にし日裏を取る等種々手を盡したれども終に回復するの見込み無きに至りたれば全部を擧げて廢棄したり是に至り夏秋蠶の飼育法は大に春蠶と異なる點あることを發見せり如何となれば初眠二眠の蠶沙は大に濕潤にして霖雨中の烟草位なり此時に於ける眠起の最も良好なりしにも拘はらず反て彼の吸頃の烟草にて失敗したり之れ氣候の異なるが故に蠶肺に感ずる所も亦大に相違ありと見へたり果して然らば將來夏秋蠶飼育の際蠶沙の適度を計らんが爲め「しけぶりの烟草夏秋蠶の蠶沙かな」又何時にても眠中に障子を開けば害あるものと思ひければ「眠るかひこにや障子を閉ぢよ開けりや蠶沙が乾くぞ〳〵」と戯にくちずさみ置きぬ云々

高津仲次郎氏調査

●清國蠶絲業視察報告（第六拾五號の續き）

蠶兒飼育及其敗支　蠶兒の發生は桑芽の發生と同じく各地同じからずと雖も之を促すには每歲四月上旬即ち清明の頃より蠶種を取り出して或は膚に附け又は褥床に入るゝ等常住坐臥の間寸時と雖も之を放さず躰温を以て發生せしむるも最も多くして各地ともに一樣の習慣なり又蠶種既に催青し蠶兒愈愈發生するに至れば之を掃下すの準備として前年度より貯藏し置きし野栗花葉子又は桑の乾葉を揉み搗きて種紙の表面に振り掛け其上に桑を刻みて撒布すること我國の粟糠を用ふると同樣にして蠶兒の桑の香氣を嗅き上るを見て掃き下し尙ほ落ちざるの蠶兒あれば鳥の羽を用ひて掃下す等略ゝ我習慣と異なるなし然しながら蟻量の輕重等は絶て之を量りたる事なきが故に其分量を知るの道なし桑の供給は掃立の當時に於て日夜五六回宛にして是亦其量は我國と異るなく掃下し後每眠必ず裏取りを行ふことと大概蠶兒の二分通り眠りたる後に於て之を爲すものにして尙ほ注意深き者は其間にも屢ゝ之を行ふ又濕氣を防止する爲め我國にては粉糠を用ふるもの多けれども清國人は皆粉灰を用ひ居れり發生の時季は各地の氣候に由り等しからずと雖も大概左の如き順序なりと云ふ

四月七日新昌、蘇縣　同十二三日紹興、曹娥、餘杭　同二十二三日無錫、金匱　同二十日湖州、南潯、嘉興、桐鄉、石門、杭州

三眠後に至れば始めて其裏取に網を使用し且つ桑の葉を刻まずして之を與ふ三眠裏取に際し始めて蠶兒を蠶槌と稱して我國の如く之を室の兩側又は片側に置かずして皆室の各隅へ設置せり故に其柱も三本にして鼎足を爲し此三本の柱に凭りて丁字形の横木を架し此横木の上へ筐を載するものとす是れ筐の形狀圓形なるに由り蠶槌の構造も又之に適應せしめんが爲め三角形と爲すの必要起りしものなり蠶兒既に四眠を過ぎて上簇の期に近くや各筐の中より其能く熟したるものを拾ひ上げて之を簇に移す其簇の構造は上州地方にて高簇と稱する者に類似して地上に三尺乃至四尺の臺を爲し竹又は茓の簀を敷きて其簀の上に藁を敷き其又上に長さ一尺乃至一尺二三寸許にて中央を緊り兩端を開かしたる藁束を立てゝ之を羅列し置くものにして簇の下には必ず火を入れ室を閉鎖し四五日を過ぎ成繭を見るまで之を開くことなし此火を用ふるの一事は室内を乾燥せしめて蠶兒の結繭に對し頗る眞法なりとす清國繭の解舒宜しきも其原因幾分か之に因るものなちん今回巡覽したる各地の養蠶は皆以上述るが如き方法に依るものなりと雖も其養蠶家と稱するものは極めて程度の低き農家にして每戸皆其家族の數に應じ男女平均一人五十斤の繭を得るの割合にて之を飼養し更に他人を雇ふ等のことなきものなれば其規模極めて小にして較ゝ大なるものと雖も一戸三百斤以上の收繭を見るものは甚だ稀なりと云ふべく從て養蠶の爲め特別の蠶室を有するものは絶て之れあるを聞かず又日本の如く政府殊に之に對して奬勵法を行ひたるの跡もなく萬事萬端唯舊慣を墨守するに過ぎずして就中迷信の甚だしき爲め各蠶室には曆を飾り鏡を備へて種々の神を祭り蠶兒に對し直接の業を取るものは古來之を婦人の勤めとして男兒の猥りに近づくを厭忌するが故に外人などが其室に踏込むは最も彼等の嫌忌するものゝ如し故に養蠶の方法に至りては一も見るべきものなしと云ふて不可なきなり又養蠶家の收益は之を清國内地他の農業に比して如何と云ふに清國は米穀を以て國民の命脈と爲し其輸出を嚴禁し居るが故に江、浙兩省の如き其生產の饒かなる地に於ける米の價は之を我國に比する時は大安くして一圓に付き白米の價凡一斗二三舛なる地に於ける米の價は之を我國に比すれば收入大に少しと雖も桑田に至りては却て然らざるものあり即ち畑一畝の坪數は凡我二百四坪にして此の一畝の畑より收穫する桑

ざざるなり蠶兒を飼育する籠は我奥州地方の圓坐の如き竹製の丸籠にして總て之を筐又は籠と稱し其小なるは直徑二尺位より大なるものに至りては五尺位なるものあり竹の編み方は細粗の二樣ありて粗（カゴ目）なるものには厚紙を敷き細（ザル目）なるものには敷物を置かずして蠶兒を飼育す又蠶棚は之を蠶槌と稱して我國の如く之を室の兩側又は片側に置かずして皆室の各隅へ設置せり故に其柱も三本にして鼎足を爲し此三本の柱に凭りて丁字形の横木を架し此横木の上へ筐を載するものとす是れ筐の形狀圓形なるに由り蠶槌の構造も又之に適應せしめんが爲め三角形と爲すの必要起りしものなり蠶兒既に四眠を過ぎて上簇の期に近くや各筐の中より其能く熟したるものを拾ひ上げて之を簇に移す其簇の構造は上州地方にて高簇と稱する者に類似して地上に三尺乃至四尺の臺を爲し竹又は茓の簀を敷きて其簀の上に藁を敷き其又上に長さ一尺乃至一尺二三寸許にて中央を緊り兩端を開かしたる藁束を立てゝ之を羅列し置くものにして簇の下には必ず火を入れ室を閉鎖し四五日を過ぎ成繭を見るまで之を開くことなし此火を用ふるの一事は室内を乾燥せしめて蠶兒の結繭に對し頗る眞法なりとす清國繭の解舒宜しきも其原因幾分か之に因るものなちん今回巡覽したる各地の養蠶は皆以上述るが如き方法に依るものなりと雖も其養蠶家と稱するものは極めて程度の低き農家にして每戸皆其家族の數に應じ男女平均一人五十斤の繭を得るの割合にて之を飼養し更に他人を雇ふ等のことなきものなれば其規模極めて小にして較ゝ大なるものと雖も一戸三百斤以上の收繭を見るものは甚だ稀なりと云ふべく從て養蠶の爲め特別の蠶室を有するものは絶て之れあるを聞かず又日本の如く政府殊に之に對して奬勵法を行ひたるの跡もなく萬事萬端唯舊慣を墨守するに過ぎずして就中迷信の甚だしき爲め各蠶室には曆を飾り鏡を備へて種々の神を祭り蠶兒に對し直接の業を取るものは古來之を婦人の勤めとして男兒の猥りに近づくを厭忌するが故に外人などが其室に踏込むは最も彼等の嫌忌するものゝ如し故に養蠶の方法に至りては一も見るべきものなしと云ふて不可なきなり又養蠶家の收益は之を清國内地他の農業に比して如何と云ふに清國は米穀を以て國民の命脈と爲し其輸出を嚴禁し居るが故に江、浙兩省の如き其生產の饒かなる地に於ける米の價は之を我國に比する時は大安くして一圓に付き白米の價凡一斗二三舛なる地に於ける米の價は之を我國に比すれば收入大に少しと雖も桑田に至りては却て然らざるものあり即ち畑一畝の坪數は凡我二百四坪にして此の一畝の畑より收穫する桑

葉は凡一千斤以上即ち百六十貫匁以上ありて之を蠶兒に與ふるときは五十斤の生繭を得べく百斤三十圓の相場にして賣却するときは十五圓と爲るべし然るに桑園の耕作及栽培に要する人夫は一年僅に十三人にして一人の賃銀は二十錢を過ぎざるが故に合計二圓六十錢とす之に租稅約三十錢を加ふるも二圓九十錢の費用に過ぎず得る所の生繭五十斤の養蠶には唯一人の婦女掛り切りとするも即ち此の婦女に對し十二圓の收益ある者にして米田を耕作するより遙かに利益なるが故に米田を廢して桑園と爲すものは勢ひ增加すべき筈なり楊子江沿岸にて南京は江蘇省に屬すと雖も養蠶の業甚だ盛ならず漢口近傍の養蠶地は黃州、當陽、沔陽、蘄州、河溶等なりと雖も之を江、浙の兩省に比すれば其產額大に劣れり（未完）

（編者曰く右第五十頁に掲ぐる所の圖は本會報第六拾五號雜報欄內本報告中桑樹栽培の項と對照參看せらるべし）

●生絲檢查所生絲檢查調

橫濱及神戶の生絲檢查所に於て內外生絲貿易商及地方生絲製產者の請求に應じ檢查を施行せられたるもの左の如し

▲橫濱生絲檢查所の部（三十年自十二月十三日至同月二十七日）

檢查請求人員			生絲種別件數		
內國人	外國人	計	器械	坐繰	計
二		二	二		二
一八	五	二三	一七八	五五	二三三
	二	二	三三	二	三五
			三		三
二〇	八	二八	二一六	五七	二七三

檢查請求項目
原貫、正貫、再繰、纖度、類節、強力、伸度
再繰、纖度、類節、強力、伸度
纖度、強力、伸度
合計

▲神戶生絲檢查所の部（三十年十一月及十二月分）

檢查請求人員			生絲種別件數		
內國人	外國人	計	器械	坐繰	計
二		二	二		二
一一		一一	二一		二一
一一		一一	二一		二一

檢查請求項目
再繰、纖度、類節、強力、伸度
合計

●宮崎縣の蠶業

在高鍋山本祐安氏の報に曰く本縣の蠶業は年々進步の趨勢を呈するが如し高等

養蠶傳習所は來る二月より開始の筈にして其教師は二名任用の見込なり又縣會にては三十一年度に縣下養蠶巡廻教師六十名程設置し尚ほ近來當業者間に於て着目する清國の蠶業視察として一名派遣のこと及新法規の結果たる蠶種檢査員も設けらるゝに決し旁々以て將來縣下斯業の面目を改むるの曉あらむかと信ぜられ尚又頃日結了せし本縣原種用檢査成績に據るに製造種數十三萬四千二百六蛾にして實際顯微鏡檢査を終へたる蛾數は十二萬七千七十蛾の内有毒磨藥一萬六千百八十五蛾にして其對百歩合十二歩七三なり即ち前年に比すれば檢蛾數の增加四萬四千三十四蛾にして病毒は三歩八八を減少するを認めたり云々

●京都府蠶絲業組合蠶業講習所　京都府蠶絲業組合にては來三十一年度より丹波國綾部町なる高等養蠶傳習所の規模を大に擴張し從來設置せる養蠶科の外更に製絲科を新設して男女の生徒を養成することゝなし其名稱を蠶業講習所と改めたり構内には蒸氣機械の据付ありて宛然一製絲場の觀を爲し製絲科は養蠶科と僅に數丁相隔たりたる綾部町の一端に新築し門前數間を隔てゝ彼の部是製絲會社なる一大製絲場(百六十八釜)と相對せるを以て現業の調査等には大に便利にして殊に女生徒の爲めには別に寄宿舍を設け且つ他府縣の人と雖も入學を許し其管理も十分に行屆くといふ今や全國中製絲に關する學理と實習とを兼ね修むることを得るの設けあるは實に本所を以て嚆矢とす洵に斯業研究上一進歩を加へたるものといふべし

●山口縣蠶絲業大會　由來山口縣の蠶絲業は極めて微々たるものなりしが蠶業知事と稱せらるる大浦兼武氏赴任の後は米作水產の業と併せて縣下勸業の三大事業となし銳意奬勵を加へられたる結果は氣勢頓に一變し今や一大有利事業として興起すべき階段を進みつゝあれば此機を失はず一層奬勵を加ふるの其だ急務なるより昨年十二月十一の兩日縣下蠶絲業大會を山口町法界寺に開會し諸般の協議を盡したり時や秋收繁忙の季節にも拘らず各郡より來り會するもの二百餘名に達し中村正路氏會頭席に就き一寫千里の勢を以て組合費補助栽桑奬勵費傳習所補助費の增加を知事及縣會に建言する事頭席に就き一寫千里の勢を以て組合費補助栽桑奬勵費傳習所補助費の增加を知事及縣會に建言することに確定し尚ほ本業の擴張策に就き木村幸三、原田寛治、農井庭太郎、西岡郡書記、毛利農學校教諭及其他の諸氏交々意見を陳述し縣立蠶業學校の設立を知事に建議することゝ、組合事業として自家用

蠶種の檢査を爲すこと、稚蠶協同飼育の奬勵を爲すべし等の說も出でたり閉會後同地祇園楽香亭に於て懇親會を開きしに出席者百餘名の多きに達し實業者の會合としては近來無比の盛會なりしと云ふ

●山形熊本二縣の夏秋蠶　山形縣に於ける昨年の夏蠶飼育戶數は二千二百五十八戶にして掃立蠶種枚數は一千七百四十九枚而して之より生じたる上繭は六百八十二石同功繭百十石屑繭五十一石出殼繭九石此の總計八百五十石、秋蠶飼育戶數に至ては夏蠶に比し非常に少なく僅に二十四戶にして掃立枚數三十七枚收繭は上繭九石同功繭及屑繭一石出殼繭一石總計十一石なり▲熊本縣に於ける昨年夏蠶の收穫は繭千九百十九石玉繭出殼繭屑繭を加ふれば二千五百三十三石、秋蠶繭千七十石玉繭出殼繭屑繭を加ふれば千四百七十六石にして之を前年に比すれば夏蠶に於て七百六十八石即ち四割三分又秋蠶にては六百三十五石即ち七割五分の增加なり斯の如く發達を見るに至りしは由來同縣にては專ら春蠶の飼育を奬勵し且つ飼育者も亦重に春蠶を飼育するもの多くして夏秋蠶の飼育をなすもの微々たりき蓋し其飼育の困難なると一は桑葉の供給十分ならざりし爲め製絲の品質を失墜せんことを恐れしによれり然るに近年蠶業の發達と共に著るしく夏秋蠶の飼育をなすもの多きを加ふると共に桑園を增加し即ち夏蠶飼育の戶數は七千九百廿一戶、掃立枚數二千六十二枚にして前年に比すれば戶數三千二十三戶、枚數八百二枚を增し又秋蠶飼育戶數は前年より千六百三十五戶、枚數八百六十一枚を增せりと云ふ是に由れば昨年は一昨年に比して夏秋蠶とも五割以上の增加なり以て其の發達を察するに足るべし

●桑苗の低價　鳥取縣西伯郡濱の目地方にては連年桑苗にて非常の收利ありしより昨年も數多の接穗をなしたるが目下植付の好時節に向へるにも拘らず各地よりの注文甚だ稀なるのみならず物價騰貴の今日にも倒ず其價至て低廉なれば手間賃肥料代だも償ふに足らざる位にて困却し居れりと同地より通信の端に見へたり

●蠶蛹肥料の製造　長野縣信州の南部は養蠶の盛なる地方なるも鐵道の便利なきを以て桑樹の肥料に缺乏を告げ養蠶家の困難一方ならざるよしなるが諏訪筑摩の有志者は之を憂へて今回搾油器械

を購入し蠶蛹肥料を製造して海產肥料等の缺乏を補ふことになせしといふ

●競進社教授員の熱心　夙に競進社に於て養蠶法を修得し本社の養蠶教師として各地に出張し養蠶の改良を行ひ競進社をして今日の盛況を呈せしむるに與りて力ある教授員諸氏が法律の結果政府が蠶種檢査法を施行するに當り養蠶の教師として檢査の何物たるを知らざるを恥辱なりとし蠶種檢査法講習の事を本社長木村九藏氏に懇請する所ありしに氏も大に之を壯なりとし快く許諾を與へ蠶業講究所教頭吉池慶正氏に囑託して蠶種檢査法の實習並に蠶躰病理等を講述せしむることゝなれり故に教授員にして他府縣の人は寄宿して斯業に老練の人なれば從て理解も早く必ず良好の結果を奏すべし而して此等は多年實業の教師として斯業に老練の人或は禿頭枯木寒山を欺くの人尠なきにあらざれども孰も意氣尚ほ盛にして壯年を凌ぐの概あり此精神此意氣是れ實に本社の基礎となりて益ゝ社運の隆盛を致すものならんか

●高崎田村清水三氏の名譽　東京府西多摩郡福生村高崎治平、田村彌三郎、清水茂吉の三氏は蠶業上に對し地方を裨益せらるゝこと尠なからざるを以て昨年十月二十八日其組合村長より功勞文に銀杯一個を添へて贈られたり式は同村宮本豐樹氏の邸宅にて擧行せしに來觀者二百五十餘名の多きに達したり村長森田県藏氏の告辭、受賞人高崎、清水兩氏の答辭、參觀人總代等の祝辭ありて式を了へ更に蠶業談話會を開き宴を設け互に杯を交へ高談快話して散會せしは午後七時なりきと而して高崎外二氏に贈りし功勞文は左の如し

高崎治平氏　夙に心を蠶業に專にし殫精驗究苟も釋かず說示啓導絶だ力め其澤に潤ふもの一府六縣に涉及す其效績特に偉大とす依て茲に銀盃を贈與し其功勞を表彰す

田村彌三郎氏　從來蠶業に志篤く啓發誘掖絶だ努め其風靡然として四隣に遠及す其效績顯著なりとす依て茲に銀盃を贈與し其功勞を表彰す

清水茂吉氏　從來蠶業に意を留め說示誘導絶だ努め其施す所園府之れに矜式するに至る其效績著明なりとす依て茲に銀盃を贈與し其功勞を表彰す

●盛岡五品聯合品評會　岩手縣盛岡市當業者の發起に係る同縣下の主產物蠶絲外四品聯合品評會は昨年十一月一日より五日間勸業場内に開設せり會長は清岡市長、事務長は中河原助役にして審査官を縣廳に請聘し審査長には北田第五課長審査官は（蠶絲）片岡技手其他各專任の技術官之に當り審査委員は當業者より撰拔せられ三日迄に審査を結了し四日褒賞授與式を擧げ服部縣知事は一々褒賞を授與せられたり其出品總點數五百十二點賞を得たるもの五十一點なり而して蠶絲に關する出品中生絲は二十點、蠶種二十點、繭は八點にして内受賞者生絲に二等賞一人、三等賞十三人、四等賞二人、繭は四等賞一人、蠶種は二等賞一人、三等賞二人なり今其審査報告を拔抄すれば左の如し（岩淵清之助氏報）

蠶種は製造の點に於て稍ゝ缺くる所のものあるも概して品質佳良殊に微粒子病毒の檢査上好成績を示せるものは本縣蠶種檢査施行の結果に外ならざるべし爾後益ゝ製種の改良に力を致すに於ては不正なる他管蠶種の輸入を防遏するを得べし

繭は形狀不良のものあり縮皺、緊緩宜しきを得ざるものあり或は色澤を損するものありと雖も概して殺蛹、貯藏の點に於て稍ゝ進歩せるの形跡を示す

生絲は出品點數十八點中僅に二點を除くの外は悉く長岡製絲場内工女の出品に係るものにして僅に色澤を異にするものあるも絡交、力絲、緒留、雙角の固着（雙角皆固着せるもの）（い疑はし糊皆の儘）等皆齊一にして器械檢査の成績又大同小異なり共に審査上優に進歩の狀を示す

●加佐郡農產品評會　京都府加佐郡農產品評會は加佐郡農會、同蠶絲業組合、同水產業組合の三團體合併して年々開設するものにて其第七回を昨年十二月廿四日より二十六日まで三日間舞鶴町加佐郡公會堂に於て開設せり今其概況を記せんに出品總數一千二百有餘點内繭絲蠶種二百十一點にして審査長は府廳より河野治平氏（京都府簡易農學校教師）を派遣せられ繭絲蠶種審査部長には平野勇藏氏（加佐郡蠶業會長丹後共同社長）を同審査員には佐藤桝太郎（蠶種製造大雲社本部員）玉城理兵衛（河東製絲合資會社長）羽賀治（信得合資會社員）の三氏を事務長木船衛門氏（加佐郡農會長兼同蠶絲業組長）より囑託せられ而して審査は十二月二十一日より着手し同二十四日より公衆の縱覽を許し同二十六日

を以て褒賞授與式を擧行せしに參會者は隨續として來集し滿堂殆ど立錐の地なきに至れり午後一時來會者一同着席先づ審査長審査の梗概を報告し次に事務長式辭を述べ褒賞を授與し了て加佐郡長川本正路氏の祝詞加佐郡農會技手鈴木敏夫氏の演說出品人總代辻本猪之助氏（一心社長）答辭を朗讀して式を了へ茶菓の饗應ありたり當日の來會者は川本加佐郡長を始め數百名にして頗る盛會なりき尙當日一等賞を得たるは（繭）有路上村小田伊太郎、東雲村一心社（生絲）有路上村高木與三郎（蠶種）岡田上村蠶種製造大雲社本部の諸氏なりしと

●大日本農會品評會開設　大日本農會第三十三回農產品評會は來る三月二十五日より三十一日まで茨城縣水戸市弘道館內に於て開設し其出品種目は米、麥、大豆、小豆、繭、製茶、葛葉粉、實綿、藍葉、果實にして繭の出品量は一升以上、出品期は三月十日限りとす而して大日本農會員外にても篤志者の種品を諸し種品は三十年以後自家の製產に限るといふ

●鹿兒島縣蠶業一斑　鹿兒島縣に於ける蠶業は逐年隆盛の趨勢となり本年度より事業の擴張、蠶種の改善、斯業者の養成等を計る爲め地方費の補助を得て十ヶ年繼續の事業となし先づ三十一年度に於て二千六百圓漸次年々に補助の額を增加し十年間に四萬餘圓の補助を受けて蠶業講習所を縣下伊佐郡西太良に新設し分敎場を薩摩郡西水引村五代に設き其他の地方に小傳習所巡廻敎師を配置し協同種蠶飼育所を設くる等のことゝなせり而して本所の敎諭に下宮長三郎氏其他助敎諭一名及技手三名を聘して本分敎場に於て學理と實地を授け每年二月一日より開始し六月三十日を以て第一期の修業となすよし又同縣に於ける昨三十年度の製造蠶種は原種用四萬十蛾內合格三萬二千六百九十蛾、廢棄七千三百二十五蛾、製絲用框製種一千三百八十三蛾內合格一千百八十七蛾、廢棄百九十六蛾、同普通製種五千三百十六枚內合格五千二百〇九枚、廢棄一百六枚にして去る十月一日より同縣技手館三之吉及蠶業講習所技手下宮長三郎の兩氏檢査を掌り日數六十日間にして結了せり今其重なる種類を擧ゞれば又昔七分、青熟小石丸各一分、支那蠶、角又其他二十八種は僅に一分に位するに至れり之を去二十八年度に比するに蠶種の一定に傾向したるは眞に慶賀すべきの一事なりとす其他自家用蠶種凡一千枚餘、他縣より輸入せし蠶種も殆ど二千枚に近しと云ふ

●鹿兒島縣產繭の成績及希望　同縣米外八品第一回品評會に於ける出品繭審査上の成績及將來の希望と題し同會繭審査部長（同縣蠶絲業組合取締所技手）下宮長三郎氏より寄せられたる全文左の如し

本會の出品繭に就き其出陳數を見るに縣下一市十郡を合せて實に其數二百二十有一にして審査に上ぼりしもの一百八十一點徵腐其他の爲め審査を行ふ能はざりしもの四十點なりし今郡市別を以て之れが評を下さんに左の如し

鹿兒島市の出品は又昔最も多く青熟、白玉等僅かに一二點を見る而して其形狀に縮緬に略ゞ相同じきが如くにして色澤稍ゝ佳絲量十匁以上に及ぶもの多くして殺蛹其期を誤らず貯藏に於ける亦宜しきが如くにして纖度は細太共に偏せざるも獨り絲長に至りて短かきの憾みなしとせず且つ其堅緻たる唯手障りの硬くして柔軟厚層なるもの甚だ少なきは遺憾とする所なり惟ふに本市の繭たる前陳の如く種類殆ど又昔となりたるは製絲家の爲め喜ぶべきの一事なりと雖も希くは戶々に自製の蠶種を養はずして勉めて老練熟達の製種家に就き蠶種を購入し蠶卵の保護に注意して桑葉の成長と蠶種の掃立と相伴ふの手段を取り飼桑に意を留めて蠶兒に空腹飢餓の憂なからしめば尙ほ之れより一層良美の繭粒を獲るに至るべきか

鹿兒島郡の出品は僅々七點にして絲量概して多からず而して纖度に至りては稍ゝ太きの傾きあり然れども種類は又昔にして繭形均一なると色澤の美なると殺蛹貯藏に意を注ぎたるは甚だ嘉すべきものなり唯だ惜らくは絲長の點に於て五百同以上に出るもの少なきは遺憾とする所なり惟ふに桑葉に早中晩の各種を栽培し掃立の期を早め以て滋養に富めるの食桑を與へ可成的平均七十度位の溫を以て飼育し高溫たらしめずんば又大に其美を增すに至らんか

掛宿郡の出品は僅々二點に過ぎずして貯繭の法全く缺くる所あるを以て徵菌寄生し繭層を損ふが故に遂に審査に上ぼす能はざりし然れども此二點を以て評するときは今一層の改良を施さゞれば良品たる遠し宜しく良種を撰んで飼育に親切ならんには又良繭を得るに至るべきか

川邊郡の出品は是又僅に六點にして審査に上ぼりしもの一點、餘は皆貯藏其當を失するが爲め徵腐た

るを免れず種類は畧ゝ均しくして又昔なるも絲長の短かきは遺憾とする所にして未だ幼稚の域を脱する能はざるの點あり宜しく原種の撰擇に注意し滋養分に富める餌桑を與へ以て飼育に周到なならんには大に利得する所あるならん

日置郡の如きは其出品點數より云ふときは最も多く實に五十點にして其色澤形狀の點に於ては優等のもの少なきも亦劣等の品多からず惜むらくは繭形大にして從て繊度太きに偏するの傾きあり緊殺中等以上に位するも絲長甚だ短くして縮緬佳ならざるの憾みあり惟ふに該地方蠶時天候の暖かなるか將た火力を用ふる度に超ゆるの致す所ならんか希はくは成るべく自家製造の蠶種を廢して該土地に老練の閑えある大養蠶家に依賴して蠶種を購入し又昔の純乎たるものを丁寧親切に滋葉を以て養はゝ蠶家一般の利益ならん殊に支那蠶の繭紬にして此郡より出品せるものあり國家を思ふの同業者は漸次此種を養ふとゝなさば製絲上の好都合ならんか

薩摩郡の如きは縣下に於ける蠶業最も盛なる地にして殊に此郡中川内及宮城を以て最とす夫れ此の如く蠶業に盛なる地なるにも拘らず僅に四十六點の出品たりしは抑ゝ故なきにあらざるべし惟ふに初秋連雨に際し貯繭法缺くる所ありし故なるか黴菌の寄生する所となりて以て繭層を損ひしに依るならん蓋し出陳繭中往々黴菌のものありしは其一斑を窺ふに足る然りと雖も本郡宮ノ城の出品は形狀に色澤に繊度に絲長に解舒に其最も宜しきもの少しとせず殊に品種の稍ゝ一定せるは他に其類を見ざる所にして特に本會に於て優等の首位を占めたるものあるは亦偶然にあらざるべし希くは蠶家戸々自家用種を製造するの風を捨て本郡中有名の開えある厚生社に托して其製種を購入飼育せば良繭を獲ること疑ひなし

薩摩郡に亞ぎて品質の稍ゝ佳なるは田水郡とす其出品三十有七點にして又昔大部分を占め背熟之に次ぎ小石丸又一二點を見る品質佳なるもの少なからざるも絲長五百回を超ゆるもの少かりしは缺點とす殊に縮緬の粗大に流れんとするの傾きあるは原繭の撰擇其大形なるものに偏せる故なられ當業者たるもの少しく留意せば之れを改むる難からざるべし曾て聞く此郡は此業の盛なるに從ひ製種家又多しと希くは地方の製種家たるもの邦家を思ふの念あらば製種の業は之れを大養蠶家に讓りて專ら繭質の一定に注目せらるゝならば縣下の爲め慶賀に堪へざる所なり

伊佐郡の出品は僅かに十二點にして黴菌のもの多く品種粗雜にして見るべきものなし實に本會出品中劣等に位するもの蓋し此郡ならん惟ふに此の如く品質雜駁なるは自家用蠶種を製造するもの多々あるに基因するなるべし希くは良種は良果を結び悪種は悪果を來すの金言に鑑み潔よく良種を求めて改むるの勝るに如かざるべし

始良郡の出品點數は二十有九にして見るべきものの少なしとせず就中種類の一定せるは最も稱すべきの一事なりと雖も惜むらくは又昔の蠶繭にして形狀短かきに偏し縮緬の粗大となりたるは遺憾なりとす惟ふに飼育に容易ならしめん爲め特に此繭形を撰擇せるものならん希くは蠶業の進歩熟達に伴ひて形狀縮緬の改善を望んで止まざる所なり聞く此郡國分村に於ける組長の熱心に斯業を奬勵せらるゝと巡廻教師其人を得たるの結果として斯の如く品質の一定せるものならん兎に角此郡の發達は期年を出でずして良美精好なる原料を出し宮ノ城と相並んで隆盛に至らんことは期して俟つべき事にこそ

囎唹郡の出品は是亦僅かに八點にして見るべきものなし絲量の少なきと絲長の最も短かきは大に遺憾とする所たり加之繭質の雜駁なる惜むらくは今少しく飼育の法を改善し蠶種の共同購入を爲して品質の一定を計らんには當業者の利益多かるべし

肝屬郡の出品は五點の少數にして審査に上ぼりしもの漸く三點なりし囎唹郎と同じく改善の必須を感じて止まず

以上の如く郡市別を以て評するときは多少異なる所ありと雖も總して繭質の雜駁なるは遺憾に堪へず希くは少許の枚數を製する製種家は之れを大製種家に讓りて地方一致共同購入の策を講じ飼育の改善を爲して絲量に繊度に縮緬に可成的製絲に好適なる支那蠶、又昔、角又等に改め以て製絲家の需要に充つるならんには繭は以て製絲家に誇るに足るべく此れより製出する生絲は米、佛等の機業家に誇ることを得て大小共に邦家の利益ならん希くは少しく反省あらんことを審査の成績に徴して聊か感ずる所を陳し以て將來の希望を述ぶ矣

◉本年の寒氣と須坂製絲

長野縣須坂地方にては例年今日頃は寒氣烈敷ため絲口凍え繰絲出來ざるより朝夕休業すること度ゝなりしに本年は降雪の多かりし割合に比すれば寒氣烈しからず本月

に入りて未だ一回も休業せしことなしとて製絲家は大に喜び居ると云ふ

●撚絲會社の開業　尾張名古屋の城北なる帝國撚絲株式會社は昨年十月を以て建築及機械の据付を終り試運轉の結果頗る好成績を得たるに因り十一月十一日より撚絲業を開始せしが其製品完全にして大に好評を得たるより目下絲況の如何に拘らず賣行宜しく前途好望の模樣なり同社の機械は佛國有名なるベルト會社新式の完全なるものにして生絲の撚數及回數の如きも需用者の希望に應じて自由に製出することを得るにより本月より一層工女を增加し一萬錘とも全部の回轉をなし各機業家より受託の賣撚をも爲し廣く需用に應ずと云ふ

●天蠶絲の試製　客年神戸市に於て開設せし第二回水産博覽會場に農商務省水産調査所の出品として同所の試製に係る天蠶絲の標本各種を額面に調製せししものを陳列せられたり而して其標本に添へたる説明書は左の如し

從來我邦に於て使用する天蠶絲は支那産に屬するは所謂野生の樟蠶を以て製す又歐羅巴に於ては專ら家蠶より製すと云ふ此製品は即ち歐羅巴の方法に倣ひ家蠶を以て製せしものなり抑も本邦の家蠶は歐羅巴のものに比すれば其體軀稍〻小なるが故に其絲線も亦細し故に精製天蠶絲の太さは僅に其半に過ぎず且つ其色澤の如きに至りては異なれりと聞く歐羅巴に於ては特に天蠶絲用として其絲線を粗大ならしむるの方法を以て之を飼養せしもの又土耳古蠶より製出せしものならむと若し夫れ本邦に於て家蠶より天蠶絲を製せんには土耳古蠶若しくは體軀の長大なる種類を撰ばざるべからず且其製造に困難なるは之に用ふる酢の强弱及び浸漬の長短にして殊に精製するに當り其用藥の種類及配劑の分量なりとす

此製品は固より試驗の爲めに製出したるを以て多少其製法を異にす且つ各種の藥品を用ひたり今其製法の概畧を述べんに既に生絲を吐き出さんとするに至れば成熟の家蠶を酢若くは水に少許の工業用醋酸を注加せるものに浸すと大略廿四時間内外にして取り上げ俎上に横へ其頭部を切斷し刀背を以て其尾部より背面を壓擦すれば絲線は容易に逆出するが故に之を引き延ばし九寸五分（歐洲製品に倣ふ）の距離に達してたる釘に捲みて緊張乾燥す此天蠶絲全く乾燥せば竹釘より取り外し其一端を

束帶し藥品の溶解せる微温湯に入れ漸次火熱を加へ（沸騰後三四分間にして引き上げ清水に浸し能く洗滌して後竹弓を以て兩端を結束緊張して乾燥す

●生絲仲次商の改稱　横濱生絲仲次商組合は本月九日總會を開き從來生絲仲次商の名義を使用し來りしも營業稅法に依り爾來代銀業と改稱することに決議したるよし

●内外生絲商の交情　神戸港生絲貿易開始の件は一の重要問題として見るを得べく殊に條約改正實施の期も近きに迫り從來とは一層彼我の交情親密ならざるべからざるものあるを以て神戸商業會議所會頭山本龜太郎氏は右開始の件に關し先頃居留地商業會議所會頭ペッガレー氏を訪問し種々懇談せしに同會長に於ても同情を表し自今内外商業會議所役員會合のことをも先方より申來りし又生絲貿易開始に關しては左の如く回答し來りし趣にて彼我内外商業會議所役員が一堂の下に會し交情を温むるが如き美擧は實に今回を以て嚆矢とす望むらくは此の交情の親密彼我取引の上に現はれ來らんことを

生絲貿易開始に關する回答　拜復貴書正に落手致候右に付本所委員會に於て十分調査致候處生絲輸出貿易發達の儀は當港の業柴に非常の關係を有する次第故本所に於ては力の及ぶ限り御助力致度覺悟に御座候當地は生絲生産地に接近致居候間當方面に於て該品の貿易中心たら爲明なる儀に候得共横濱在留生絲商は已に不少資金を投下て營業致居候に付尚其上當地に支店を設くる樣の運に立至らば是に多少の失費を要する事は申上るまでもなき次第に御座候間當港内地生絲商諸君に於ては其邊の事情十分御酌量相成度等誘導方に付ては大に御盡力あらんことを願る肝要と被存候右件に付貴所將來の御運動上に付ては尚御報を願す〻べし候得は幸茲當所に於て出來得る限り御助力致度決心に御座候此段及御回答候也

内外商業會議所會員會合に就ての照會　扨目本經濟上の現況に付ては小生共も遺憾へざる次第に御座候間貴所御役員と當所委員共と幸に一堂に相會するの機を得候得ば多少の利益可有之歟と被存候右は勿論極めて打解けたる事に致し双方共何等實行上に就き確定致す樣の事は不致方却て好都合歟と被存候去りながら兩會議所にして敬真を施す上に就き幸に能く相提携し得る事を發見するに於ては御相談の上如何樣の儀に付ても充分御助力可申事は當所の最も希望する所の有之候旨茲に確言致候前文會合の事は貴下に於ても元より御贊成の事と存候間幸に御承諾み得候得ば新年早々一座御寄合致度此段得貴意候敬具

●實業教育費國庫補助廢止　石川縣金澤市蠶絲業組合立養蠶簡易學校國庫補助金は實業教育

費國庫補助法第六條但書に據り昨三十年十一月限り廢止する旨本月十四日文部省より指令ありたり

●關西生絲の品位に就て　近年關西地方の製絲場は日に月に其業務を擴張し既に商館に於ても同地方の生絲に望を屬せるもの多々あれども如何せむ其荷數の纒らざる爲め滿足に歐米の注文に充つること能はず其注文に應ずるや原品の商票を剝ね他の商票を付着する等のことなきにしもあらず又是迄米國は太筋物に限り注文し來りたるものなるが近比十デニール位の細物注文を受くること屢々なるも某商館の如きは關西製絲中精品あるを知るも其荷數の少なきより現に前記の如く商賣の擴張を爲し注文に應じ居るよし豈に殘念の至りならずや歐米生絲取引の其規模大なることは今更言を要せざるも自家の製絲をして彼の市場に聲價を揚げむには今日の如き有樣にては能はざることなり宜しく此際大に共同して一定品を製し一商賣の下に彼等の注文に充つるの方策を講ずるは目下の一大急務ならむと或る當業者は物語られたり

●叙任及辭令

叙從七位（三十年十月三十日）　正八位　芝山直清
東京帝國大學農科大學教授正六位理學博士　佐々木愚二郎
塊地利浜牙利國皇帝陛下より贈與したる銀冠第三等勳章を受領し及び佩用するを允許す（同十一月十九日）
生絲檢査所技師從農商務技師横濱生絲檢査所長正六位勳六等　岡穀
叙勳五等授瑞寶章　東京帝國大學農科大學教授正六位理學博士　佐々木愚二郎
叙勳六等授瑞寶章　蠶業講習所技師正六位　練木喜三
農商務技師正七位　紫藤章
陞叙高等官五等　生絲檢査所技師從七位　今西直次郎
陞叙高等官六等　生絲檢査所技師從七位　高橋富貞
陞叙高等官六等　生絲檢査所技師從七位　田原休之丞
陞叙高等官六等　生絲檢査所技師從七位　圓中文助
四級俸下賜　生絲檢査所技師　岡穀
九級俸下賜　生絲檢査所技師　圓中文助
（各通）　蠶業講習所技師　松永伍作
蠶業講習所技師　本多岩次郎
十級俸下賜（以上同十二月二十八日）

●正誤　第六拾六號六十六頁下段十五行目古屋丹藏は順氣館の誤にして種類の關支那の二字を脱す、同六十七頁下段十九行目田中兼吉は田村兼吉、同七十頁下段一行目の部角田喜右作は上段蠶種の部横田長太郎の次に入るべきの誤

●會員諸件　左の諸氏は客年十二月より本年一月に渉りて入會若くは死亡せられたり

●特別廣告

▲入會

○通常會員

東京　平岡鐵之助　同　埼玉　雨宮兵作　同　三重　中尾熊太郎
同　井上茂十郎　同　淺見茂七　同　山崎茂十郎　同　金丸文吾　同　滋賀　宮本耕三
同　平井濱吉　同　原久次郎　同　野口粹吉　同　小林貞之進　同　山本角之助
同　平井龜次郎　同　平井龜次郎　同　馬　同　長谷川藤次郎　同　弓削善四郎
京都　向仲愿吾　群　三木庄内　同　萩原豐吉　同　宮城　梅森三郎
大坂　椿本淳助　同　北爪隆吉　同　佐々木千鐵　同　洞口獻壽　同　北畑保治
新潟　池田　同　沼居甚作　同　山林捨次郎　同　木村次郎　同　加川謙七
同　樋口次郎三郎　同　等松利作　同　金丸文七　同　佐藤信次　同　阿部寅藏
同　岡崎彦次郎　同　小池安藏　同　青德兵衛　同　紺野里吉　同　福島
同　小熊正勇　同　眞下萬作　同　佐藤一郎　同　立花半七
同　鴨井喜一　同　千葉　静岡　吉岡子之吉　滋賀　村田甚太郎　同　岩手
埼玉　上村惣五郎　同　木　同　小野寺兵次郎　同　中村治輔　同　母衣岩重次郎
同　小暮安太郎　栃　同　阿久津勝太郎　同　神谷慶三　同　河野茂兵衛
同　野村清次郎　同　小原利兵衛　同　大藤兵太郎　同　梅村又三
同　野口織之助　同　三重　同　野瀨政之進　同　山形　柏倉正知

山形　横尾謙三　福井山川自治雄　香川田中伊左衛門　宮崎有村堯盛
同　原田喜太郎　同　亀田八十八　同　高橋鐵五郎　鹿兒島　池田猪之助
同　佐々木六右衛門　同　山口田中恒介　高知川田多喜馬　北海道　志釜幸三郎
同　長岡三郎　同　太田央　宮崎山下武良　計七十八名

右の内にて平岡、上村、小暮の三氏は下田伊左衛門氏。井上氏以下二氏は高崎治平氏。向仲、小熊、梅舟、山川、熊田の五氏は二宮熊松氏。椿本氏及村田氏以下四氏は鈴木良太郎氏。池田(俊)鴨井の二氏は新潟支會執も紹介せられ樋口、岡崎、山崎、淺見、原、野口(鮮吉)沼居、吉岡、小原、梅森、北畑、細野、河野、柏倉、川田、山下、有村の十七氏は各自に申込まれ野村氏以下二氏は田島蔵作氏。三木氏は宮下德一郎氏。北爪氏は北爪長太郎氏。等松氏は町田六三郎氏。小池、眞下の二氏は田口宗太郎氏。東氏は生方五郎氏。小野寺氏は永島禮七氏。阿久津氏は秋元重光氏。中尾氏以下七氏は神川亮吉氏。金丸(文七)青の二氏は小野橋吉氏。佐藤(一郎)田中(伊左衛門)の二氏は小野忠太郎氏。宮本氏以下二氏は大島金松氏。濁口氏以下四氏は森木長氏。立花氏は伊達郡支會。母衣岩氏は大竹權太郎氏。横尾氏以下二氏は山形支會。易岡氏は阿部與三郎氏。田中(恒介)太田の二氏は毛利正雄氏。高橋氏は齋藤省三氏。池田(猪之助)氏は下宮長三郎氏。志釜氏は石澤泉太郎氏執も紹介せられたり

○通常會員

▲死亡　山形　柏倉惣吉

●寄附金受領廣告

一金五圓　特別會員　埼玉縣　木村豐太郎君

右本會へ寄附せられたり

明治三十一年一月　大日本蠶絲會

●山形支會寄附金受領廣告

一金五拾錢　志田平松君

右山形支會基本金として寄附せられたり

●正誤　第六拾五號廣告欄第二頁山形支會寄附金者下段十行金壹圓峰村喜藏同十一行金壹圓齋居忠眞二氏の金額は各金壹圓五拾錢にして同頁中段二行人見堅治氏の次に列記すべきの誤り